

教室年報 2017



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2017

巖刀会(外科学講座同門会)



巖美溪(一関市)

外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでおります。



こちらのQRコードを読み取って
ホームページにアクセスできます



当科では我々がやっている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解をいただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報 (2017年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

2017年を振り返って……………外科学講座教授 佐々木 章

教室の今年1年

2017年、そしてこれから……………外科学講座准教授 水野 大
平成30年を迎えて……………外科学講座准教授 肥田 圭介

008 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

011 チーム紹介

上部消化管チーム（内視鏡外科／食道疾患／胃疾患）・肝胆膵チーム・下部消化管チーム・乳腺チーム・小児外科チーム・リサーチチーム《分子治療研究室》・高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座》・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

024 平成29年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

026 新教室員紹介

屋成 信吾／木村 拓／藤澤 良介

027 寄稿

救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野 特任教授に就任して……………救急・災害・総合医学講座特任教授 下沖 収
第35回日本肥満症治療学会学術集会終了報告……………佐々木 章
巖刀会学術賞を受賞して……………片桐 弘勝
国内留学レポート……………近藤 優
海外研修報告
海外研修報告－IRCAD台湾……………高清水清治

034 平成29年アルバム紹介

042 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・内丸病院・盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・岩手県立大船渡病院・北上済生会病院・岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・八戸赤十字病院・かづの厚生病院

052 外科紹介医療機関

058 研究業績

072 編集後記

073 協賛広告



岩手医科大学



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

2017年を振り返って

教室における2017年の振り返りと2018年の抱負を述べさせていただきます。

2017年4月20日に岩手医科大学は創立120周年を迎え、本学にとって記念すべき節目の年となりました。創立120周年記念事業では、2017年4月に看護学部が新設され、医・歯・薬・看護の4学部からなる医療系総合大学として新たにスタートしました。

外科学講座関連の人事では、2017年4月1日付けで岩手県立千厩病院院長の下沖収先生が救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野教授に就任されました。外科学講座と同門会である巖刀会出身の教授は、中村隆二教授(PET・リニアック先端医療センター)、前沢千早 教授(医歯薬総合研究所 腫瘍生物学分野)、木村祐輔 特任教授(緩和医療学科)、西塚 哲 特任教授(医歯薬総合研究所 医療研究開発部門)と私も含め6名となりましたので、連携を取りながら色々な面で協力していきたいと思っております。教室内では、2017年4月1日付けで下部消化管チームの木村聡元先生が特任講師に昇任しました。2017年には、研修医

4名(岩手医大卒3名、自治医大卒1名)、大学院生2名(岩手医大卒)が入局し、他病院から1名(藤田保健衛生大卒)が専門研修にきています。2018年4月の入局者は7名の予定ですが、今後も仲間を増やしていけるように、外科学講座の雰囲気をよくして行きたいと思っております。

外科学講座は、臨床面では「内外合一」の原則を重んじ、内科知識をも併せ持ち、患者さんを全人的にとらえ、しかも治療と全身管理ができるオールランドの力を有する臨床外科医の育成を目指してきました。私自身が学生時代は消化器内科医を希望し、現在もその気持ちが強いですが、この言葉を支えにして励んできました。これからの時代の教育では、外科学の進歩や技術革新、医療を取巻く環境と社会情勢の変化に迅速に対応できる様な外科医が求められると考えています。まさに、Charles Darwinの著書、「種の起源」(On the origin of species by means of natural selection, or the preservation of favoured races in the struggle for life)のとおりです。

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

外科学講座の診療体制は、歴史的な背景から、食道チーム、胃チーム、肝胆膵チーム、内視鏡外科チーム、小児外科チーム、乳腺チームに細分化され、専門性を重視して行ってきました。しかし、臓器別で内視鏡外科手術のエキスペートが育成できた一方で、若手外科医も専門領域に偏在する傾向になり、オールラウンドな臨床外科医とはいえない状況となってしまうことも事実です。また、2017年4月より新外科専門医制度が発足したこともあり、診療チームの再編成を行いました。食道チーム、胃チームと内視鏡外科チームを合併、消化器外科は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3チームに集約し、若手外科医が色々な疾患の経験が積めるようにしました。教室員の育成では、教室の伝統をあらためて胸に刻み、将来色々な領域・地域において、外科学の発展に貢献できる外科医の育成を目指していきたくと思います。

研究に関しては、文部科学省科学研究費などの競争的研究資金の獲得と英文論文の発表を目的として先行研究を教室員全員に義務付けし、2週に1回の割合でリサーチプロポーザルを継続しています。この結果、平成29年度の科学研究費(基盤研究C 5件、若手研究B 1件)を獲得することができ、継続中の科研費12件と厚生労働科学研究費1件の研究が進行中です。今後も更なる競争的研究資金獲得の向上を目指していきたくと思います。

また、研究では、教員評価と今後のキャリアパスを考えて、国際学会での発表と英文論文の作成を重視しています。2016年からは、大学院1年に対して若手外科医の国際学会発表の登竜門と考えているPan-Pacific Surgical Association Japan Chapterでの発表を必須にしています。2017年からは、国際学会での発表と英文論文の作成について、年間スケジュールを自己申告制としました。基礎的・臨床的研究が推進され、継続的に行ってくれることを期待しています。

2017年の診療実績では、総入院数は、2016年の1,316名から1,408名に増加、総手術件数は、2016年の1,176件(全麻1,080件、局麻77件、その他19件)

から1,250件(全麻1,157件、局麻93件)に増加しました。術式は可能な限り低侵襲な内視鏡外科手術を選択していますが、高難度手術も安全に実施できています。2007年1月に岩手県第1例目の生体肝移植が成功して以来、2017年12月までの肝移植件数は95件(生体肝移植86件、脳死肝移植9件)となり、生存率も全国平均以上です。各診療領域で安全な内視鏡外科手術の導入と手技の定型化ができた現在、今後は効率的に病床利用率を高め、在院日数、検査回数・項目、使用薬剤などについてクリニカルパスの見直しを行い、新病院の増収に貢献できればと思います。

最後に教授就任後に初めて主催した学会について報告します。第35回日本肥満症治療学会学術集会を、2017年6月23日(金)から24日(土)の2日間、盛岡のアイーナで開催させていただきました。わが国では、肥満症に対する基礎的・臨床的研究の一層の充実を図る日本肥満学会(JASSO)があります。一方で日本肥満症治療学会(JSTO)は、肥満症の治療を中心に、基礎的・臨床的な研究と討議から科学的で適切な治療指針を見出し、有効かつ安全な肥満治療、合併症予防と健康回復に寄与することを目的としています。今回の学術集会のテーマは、「promising evidence & patient care」としました。「promising evidence」はJASSOを、そして「patient care」はJSTOを意識し、両学会の融合の願いも込めてこのテーマにしました。総演題数169題と過去最多のご応募をいただき、また、参加者も450名を超え、過去最多の参加者のもとで学会を盛会のうちに終えることができました。本会の開催に当たりまして、巖刀会の皆様に多大なご支援をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

今後とも、皆様のご支援を賜りながら教室員一同が結束し、教室のさらなる発展を目指していく所存です。一層のご指導ご鞭撻をお願いいたしまして、巻頭言の挨拶とさせていただきます。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

水野 大

Masaru Mizuno, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2017年、そしてこれから

2017年、国際的にはトランプ氏の米大統領就任、韓国の朴大統領の罷免、英国のEU脱退と、前年にわかっていたこととはいえ、「本当にそうなっちゃうんだ」と感じつつもやや他人事であった話題と、他人事では済まされない飛翔体や核実験など北朝鮮関連の話題がニュースを賑わせました。国内に目を向けると将棋界での藤井四段（当時）の活躍、上野のパンダの赤ちゃん出産といった明るい話題、総選挙での予想通りの与党圧勝（野党自滅）といったところでしょうか。さて、足元に目を向けると「少子化」が止まりません。専門柄、毎年的人口動態は注視しておりますが、昨年もまた減りました。秋田県がすでに消滅可能性が高い県の最優先モデルとして取り上げられることが多いのはご存知のことと思いますが、隣県を笑ってみていることはできません。日本創生会議が80%以上の市区町村が将来消滅する可能性のある都道府県と予想したのは4県でしたが、残念ながらその中に青森、秋田、岩手の北東北3県が名を連ねています。具体的な数字で申し上げますと3県の合算で、平成に入ってから人口は約412万→357万に、出生数は約4万1千→2万3千に減少しています。私の担当する小児外科の手術件数は、昨年も何とか横ばいを維持できましたが、これは種々の理由により市中病院での小児手術が減ったためと考えられます。基本的には出生数に依存しますので、そう遠くない将来、手術件数は減少に向かうと予想され、生き残りのためにはより良い小児外科医療を提供するしかないと考え、日々実践・指導を行っております。しかし、実のところ、これは小児に限ったことではありません。冒頭であ

s a r u M i z u n o

M.D., Ph.D. Associate Professor

えて「少子高齢化」ではなく「少子化」という言葉を使いましたが、これは「高齢化」というのは人口に占める高齢者の比率が高いことを意味するのであって、実数が右肩上がりが増えるという意味ではないからです。国立社会保障・人口問題研究所の報告では高齢者の人口に占める割合（高齢化率）は2100年以降も上昇し続けるとの見通しですが、実際の高齢者数（老年人口）は日本全体でも2042年をピークに減少に転じると予想しており、人口減少が続く北東北ではその5～10年前にピークを過ぎるであろうことは想像に難くありません。そうなれば当然医療機関同士での競争が進み、医療の格付けが進むと考えられます。我々医局に在籍する者の責務は、そのような時代になっても通用する（生き残れる）質の高い医療を提供できる医師を養成すること、医療機関を維持することと考えております。

さて、重い話はさておき、さらに近くに目を向けますと、我々の医局にも女性医師が増え、小児外科グループの女性医師は昨年第一子を出産しました。全国的に医学生に占める女子の割合が増えている状況下では、外科も女性医師の力無しに維持するのは困難といえます。私としてもチーフとして初めての経験ですが、いつかはこうなることは予想されていたので、何人かの先輩スーパー女性医師？のお話を伺っておりました。そうしますと、更衣室や女性専用の休憩所、当直室といった最低限のアメニティの整備が必要というのはもちろんですが、意外だったのは「女性医師は皆特別扱いを望んでいる」という偏見は困るとのお話でした。具体的には「本人、あるいは子供の体調が悪い時などに早退したり、その状況が長引く際には時短勤務にしたりという必要が出てくるのは事実だ。しかしそれを行使するかどうか、仕事量を減らすかどうかを決めるのは女性医師自身であり、周囲が勝手に女性だから、子供がいるからと決めつけて最初から仕事量を極端に減らしたり時短を押し付けることではない」と。むしろ逆に「男性医師も子供の有事には遠慮なく、父親として、女性医師同様に早退したり時短勤務ができる職場環境を整備すべきだ。」とのご意見でした。小児外科領域は外科の中でも比較的女性医師が多い分野でもあり、いくつかの施設に聞いてみますと、すでにそれを実践している施設もあることを知り、自身の考え方がいかに古いか、遅れているかを再認識させられました。今後は心を入れ替え？、逆にわれわれが先進モデル的な職場と評価されるようチーム全体として働き方を改革していく所存ですが、果たして実現できるのかどうかは大いに不安なところであります。同門の先生方におかれましてはこれからも温かい目で見守っていただけますようお願い申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

肥田 圭介

Keisuke Koeda, M.D., Ph.D.
Assistant Professor

平成30年を迎えて

巖刀会の皆様におかれましては、日頃からの医局へのご指導・ご支援を賜りこの場をお借りして深謝申し上げます。

さて、年が明け平成ももう30年を迎えることとなりました。平成元年卒業の私も医師、外科医師となり、はや30年が経過しました。諸先輩方に比べると私はまだまだ若輩者ですが、30年の外科医生活を振り返り、雑感を記したいと思います。

まずは、手術。当初、「外科に入ります！」と他科のポリクリで言うと、決まって「10年後には手術なんかなくてよい時代が来る、だからやめたほうが良い」と言われたものです。確かに30年が経過して、行われなくなった手術、明らかに減少した手術があります。その一方で糖尿病に対するmetabolic surgeryなど昔にはとても考えられなかった手術も新たに行われるようになりました。自分の専門である胃がんの手術においても、ESDが始まり、腹腔鏡下手術がメインとなり、傍大動脈リンパ節の予防的郭清や昔は早期がんでも当たり前にやっていた網嚢切除が臨床試験でその有用性が証明されず、すっかり行われなくなりました。新年度からはロボット支援胃切除も一部保険が適応となるようで、胃がんそのものの罹患数の減少から、将来は胃がんといえども集約化が進むかもしれません。そのような流れの中、医局で心配されるのが若手医師への教育です。アッペから始まり、ヘルニア、胆摘、そしてコロソからマーゲンへとといった昔のレーゲルが、手術適応の変化と腹腔鏡手術の普及から若手外科医が経験できる症例が変化するとともに減少してしまった感があります。外科を目指す若手医師は昔も今も手術がしたい、うまくなりたいが最優先の興味であることに変わりはなく、そのような若手のモチベーションをいかに保ち手術を教えていくかが今後の課題と考えられます。

isuke Koeda

M.D., Ph.D. Assistant Professor

手術に加え今の若手医師の関心事の一つに、資格の獲得、新専門医制度が挙げられます。内科と違って外科では今までも全領域の研修を義務付けていたので、大きく変わることはありません。但し、あらかじめ提示したプログラムに則り、外科医としての教育を手術症例の経験とともにしっかりと指導しなければなりません。手術経験が進まない、きちんとした教育・指導がなされない等の場合には、専攻医からプログラムの不備として指摘され、以後の専攻医の応募にもかかわってくるのが想定されます。岩手医科大学外科専門医プログラムに参加いただいた関連病院におかれましては、今まで通りで構いませんので一層の熱いご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

研究においてもここ数年で変化が生じてきました。発表言語の英語化から始まり、多重発表の禁止は当然ながら、後ろ向きの研究や症例報告でも倫理委員会での承認が必須になるようになってきました。学会発表するのにハードルが一層上がったと思いますが、考えてみれば30年前は図一つ作るにも手書きで、そこからブルーバックスライドを作って、誤字を指摘されたら作り直して…そしてやっと発表といった手間を思い起こすと、まだまだ楽なのかもしれません。しかし、発表（研究）の立案から申請書（プロトコル）を作成し発表までするのなら、結果を論文に残すことが必然となってきます。指導するほうもされるほうもお互いが大変ですが、今後はますます英文論文の重要性が増してくるので頑張らないといけません。

教育では今、講義に行くとお出席率がほぼ100%ということをご存知でしょうか？出席はスマホで行い、出席状況がリアルタイムに保護者に伝わるシステムになっています。半分も出席していないのに代返でほぼ全員が出席など昔は良き時代だったと思い起こされます（実際に教壇に立ってみると代返も寝ているのもよく見えるので昔の先生方は懐が深かった（？）とも感じています）。100人以上を前にして行う講義は予想以上に圧巻で、まして授業評価などといったものもあるので、朝から出席する学生も大変ですが我々教える側も大変です（さらに講義は矢巾キャンパスで行われるので片道30分以上はかかります）。とはいえ、当学の国家試験の結果を鑑みますと、大変だなどと言っている場合ではなく、我々も医師と同時に教員という立場でもあるので、現状を打破すべく頑張らなくてはなりません。

これまで30年外科医として、ここ10年あまりは大学勤務外科医として歩んできましたが、この度外科学講座から離れて、医療安全学講座付を拝命いたしました。自分としては外科一筋の生活に未だ未練があるところではありますが、残念ながら「やめてはいかん」との反対する意見もなく、新たな道へ進むことを決心いたしました。しかし、外科医から完全に「引退」するわけではなく、手術も少しずつではありますが継続し、これまで築いてきた技術を後輩に受け継ぎたいと考えております。ある意味、今後は動きやすくなりますので、症例があればお手伝いに行きますので気軽に呼んでいただければと思います。今後は立場が変わりましても、「さすが一外科出身だ」と言われるように努力・精進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



- 助教
小松 英明
〔平成16年卒〕
- 助教(任)
近藤 優
〔平成16年卒〕
- 大学院生
畑中 智貴
〔平成26年卒〕
- 助教
千葉 丈広
〔平成15年卒〕
- 助教
松尾 鉄平
〔平成17年卒〕
- 助教(任)
佐藤 慧
〔平成21年卒〕
- 助教(任)
菅野 将史
〔平成16年卒〕
- 講師
高原 武志
〔平成12年卒〕
- 講師
秋山 有史
〔平成11年卒〕
- 秘書
佐藤 育子
- 秘書
鈴木 千里
- 助教
小林 めぐみ
〔平成19年卒〕
- 特任准教授
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕
- 准教授
肥田 圭介
〔平成元年卒〕
- 特任教授
下沖 収
〔昭和63年卒〕
救急災害総合医学講座
- 教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕



大学院生
高清水 清治
〔平成22年卒〕

助教
馬場 誠朗
〔平成17年卒〕

専門研修医
棚橋 洋太
〔平成27年卒〕

大学院生
天野 怜
〔平成26年卒〕

専門研修医
川島 到真
〔平成26年卒〕

助教
石田 和茂
〔平成17年卒〕

助教(任)
川岸 涼子
〔平成21年卒〕

大学院生
二階 春香
〔平成23年卒〕

非常勤講師
杉立 彰夫

助教
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕

助教
梅邑 晃
〔平成17年卒〕

特任講師
木村 聡元
〔平成14年卒〕

助教
長谷川 康
〔平成14年卒〕

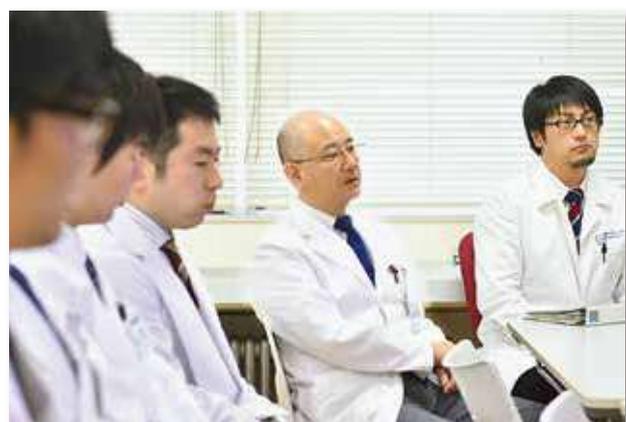
准教授
水野 大
〔昭和62年卒〕

緩和医療学科教授
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

特任准教授
新田 浩幸
〔平成5年卒〕

講師
岩谷 岳
〔平成7年卒〕

病棟風景



チーム紹介

上部消化管チーム

内視鏡外科

食道疾患

胃疾患

肝胆膵チーム

下部消化管チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

リサーチチーム《分子治療研究室》

高度救命救急センター

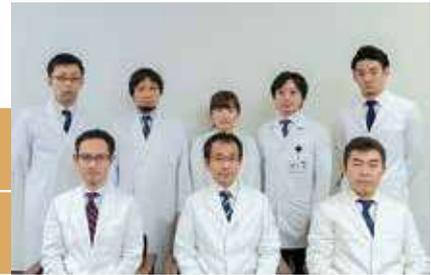
《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科



上部消化管チーム

STAFF：佐々木 章、肥田圭介、秋山有史、千葉丈広、馬場誠明、梅邑 晃、二階春香、天野 令、棚橋洋太



内視鏡外科

専門外来 水曜 8時30分-12時

臨床では、内分泌代謝疾患、消化器外科疾患に対する内視鏡外科を担当しています。研究では、2型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、睡眠時無呼吸に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序の解明が主体となりました。当チームにおける全手術に対する腹腔鏡下手術の割合は100%で、特にreduced port surgeryの適応が増加しています。

平成29年のニュース

- 6月▶ 第35回日本肥満症治療学会学術集会を盛岡で開催（佐々木章）
- 6月▶ 日本外科系連合学会理事に就任（佐々木章）
- 10月▶ 日本臨床栄養学会理事に就任（佐々木章）

平成29年 診療・研究状況報告

- 入院数：128例
- 手術数：48例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	7例
胆嚢結石症	腹腔鏡下胆嚢摘出術	2例
胃粘膜下腫瘍	2孔式腹腔鏡下胃部分切除術	3例
	腹腔鏡・内視鏡合同手術	1例
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	10例
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺亜全摘術	10例
	内視鏡下甲状腺片葉切除術	3例
脾臓良性疾患・脾腫瘍	腹腔鏡下脾臓摘出術	2例
鼠径ヘルニア	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	10例

《年次手術数推移》

	2015年	2016年	2017年
高度肥満症	16	6	7
副腎疾患	9	9	10
甲状腺疾患	7	8	10

●平成29年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：症例集積中
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における異所性脂肪量減少と代謝変化：症例解析中

- ・肥満閉塞性睡眠時無呼吸に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序：症例解析中
- ・非アルコール性脂肪性肝炎に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序：症例解析中

《全国規模》

- ・がん医療エキスパート育成事業（がん医療専門チームスタッフのためのeラーニングプログラム、www.cael.jp）：継続

●今後の研究課題

- ・NASH合併高度肥満症に対する肥満外科手術後のインスリン抵抗性と肝組織学的変化
（平成27-29年度科研費 基盤研究C）：症例集積中
- ・肥満・糖尿病に基づく動脈硬化形成における小胞体ストレスの役割の解明
（平成27-29年度科研費 基盤研究C）：症例集積中
- ・食欲中枢異常による難治性高度肥満症の実態調査
（平成28-30年度科研費 難治性疾患等政策研究事業）
- ・プロテアソーム機能活性化と小胞体ストレス応答制御による機能的膵島細胞シートの作成
（平成28-30年度科研費 基盤研究C）
- ・肥満外科手術後の腸内・口腔内細菌叢の変化と肥満関連健康障害の改善機序の解明
（平成29-30年度科研費 若手研究B）

食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行っております。外来診療は外来化学療法室や放射線科と連携し、外来放射線/化学療法を導入しています。また手術予定患者様には早い段階から院内の周術期管理チームが介入して安全性や質の向上に努めております。入院では手術治療を中心に、早期癌から高度進行癌まで当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携して治療にあっております。化学・放射線療法、手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ (JCOG) に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。

食道癌に対する胸腔鏡手術の割合は86%でした。

平成29年のニュース

- 4月 ▶ 遠藤先生が盛岡市立病院へ赴任。岩谷先生がリサーチ・グループの責任者に。上部消化管グループとして、新体制でスタート。

平成29年 診療・研究状況報告

● 食道癌入院数：109名

● 食道癌手術：29名（胸腔鏡下食道切除術：25例）

疾患	術式	症例数
食道癌	胸腔鏡下食道切除術	25例
	右開胸食道切除術	1例
	左開胸開腹食道切除術	2例
	経裂孔の下部食道切除術	1例

《年次手術数推移》

	2015年	2016年	2017年
食道癌	26	22	29
胸腔鏡下	19	11	25

● 平成29年研究報告

《教室内》

- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」 *Int J Oncol*, 2017
- ・「積極的アミノ酸投与による食道癌根治術後栄養管理の検討」 *Ann Med Surg*, 2017
- ・「食道癌切除後頸部手縫い吻合467例の成績」 *Dis Esophagus*, 2017
- ・「食道癌周術期管理チーム介入の効果」 *Support Care Cancer*, 2017
- ・「進行食道癌に対する Docetaxel/Cisplatin/5-FU (DCF) 療法後の胸腔鏡下食道切除術の治療成績」 *Surg Endosc*, 2017
- ・「切除不能・再発食道癌に対する biweekly-DCF 療法の安全性評価」 データ集積中
- ・「食道癌術前化学療法と術後感染症との関連性の検討」 データ集積中
- ・「進行食道癌における食道ステント挿入術の検討」 予後追跡中
- ・「食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング」 症例集積中
- ・血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発 (岩谷、解析中)
- ・血漿DNA解析に用いる採血管評価 (遠藤、論文投稿中)
- ・食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討

(佐々木教之、解析中)

- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析 (鴻巣、佐々木教之、解析中)
- ・消化器癌の予後に関連する non-coding RNA *FTX* に関する検討 (秋山、解析中)
- 《全国規模》
- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌 (T4 を除く) に対する術前CF療法/術前DCF療法/術前CF-RT療法の第III相比較試験」 症例登録中
- ・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対する CF (シスプラチン+5-FU) 療法と bDCF (biweekly ドセタキセル+CF) 療法のランダム化第III相比較試験」 症例登録中
- ・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌 (NEC) を対象とした エトポシド/シスプラチン (EP) 療法とイリノテカン/シスプラチン (IP) 療法のランダム化比較試験」 症例登録中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道a癌 (T4 を除く) に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験」 症例登録中
- ・「臨床病期 IB-III (T4 を除く) 食道癌に対する S-1 術後補助療法の第II相臨床試験」 症例登録中
- 《科研費獲得》
- ・「血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発」 文部科学省科学研究費 基盤研究C (研究代表者 岩谷岳)
- ・「消化器癌の予後に関連する non-coding RNA *FTX* に関する検討」 文部科学省科学研究費 基盤研究C (研究代表者 秋山有史)
- 今後の研究課題
 - ・切除不能症例に対する conversion 手術の増加。
 - ・食道癌周術期管理におけるさらなる低侵襲化の探求。
 - ・手術、化学療法、放射線療法による集学的治療成績の向上。
 - ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発。

胃疾患

専門外来 木曜 8時30分 - 16時

今年度より内視鏡外科、胃・食道および内視鏡外科チームが合併し上部消化管チームとして診療を行いました。胃癌の手術では2017年は全国的に胃癌切除率が減少するなか、久しぶりの100件となり、腹腔鏡手術の割合78%以上となりました。胃癌治療のエビデンス確立の一助となるべく、JCOGを初めとする臨床試験への積極的参加、患者登録を行っており、JCOGでは医局の大先輩である静岡県立がんセンターの寺島雅典先生が胃癌グループの主任研究者とられましたのでこれまで以上の登録を目指して頑張りたいと思います。

当チームにおける胃切除手術に対する腹腔鏡下手術の割合は78%でした。

平成29年のニュース

- 3月 ▶ 日本胃癌学会@広島
- 4月 ▶ 上部消化管グループとして診療開始
- 10月 ▶ 第7回みちのくLAGセミナー開催

平成29年 診療・研究状況報告

●手術数：144例

《内訳》

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	22例
	腹腔鏡下胃切除術	78例
GIST	切除術	4例
その他	審査腹腔鏡、バイパス等	40例

《年次手術数推移》

	2015年	2016年	2017年
胃癌	97	87	100
GIST	2	2	4
計（悪性腫瘍切除数）	99	89	104

●平成29年研究報告

《教室内》

- ・「胃切除後骨代謝障害に関する観察研究」：症例集積終了、岩手医誌投稿。
- ・「高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討」：株ツムラとの共同臨床試験。症例登録終了、追跡中。
- ・「胃癌由来循環腫瘍DNA モニタリングによる転移・再発の検証」症例登録中。

《全国規模》

- ・JCOG0912「臨床病期 I 期胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG1013「切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用（CS）療法とドセタキセル/シスプラチン/

S-1併用療法（DCS）療法のランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。

- ・JCOG1108 「高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/1-LV療法 vs.FLTAX療法のランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG1401 「臨床病期 I 期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術および腹腔鏡下噴門側胃切除術の安全性に関する非ランダム化検証的試験」解析中。
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道接合部腺癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化第Ⅱ相試験」症例登録中。
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化Ⅱ/Ⅲ相比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・「切除不能進行・再発胃癌患者を対象としたTAS-118/Oxaliplatin療法とS-1/Cisplatin療法の多施設共同ランダム化比較第Ⅲ相試験」登録終了解析中。
- ・「標準治療無効な転移性胃癌を対象としたベストサポータティブケア下のTAS-102とプラセボを評価する二重盲検無作為化第Ⅲ相比較試験」症例登録中。
- ・「ONO-4538 第Ⅲ相試験（胃癌に対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験）」症例登録中。

●今後の研究課題

- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡胃切除の有用性の検証
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医育成
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進

肝胆膵チーム

STAFF：新田浩幸、高原武志、長谷川康
片桐弘勝、菅野将史

専門外来

木曜 / 8時30分-12時30分
(新田特任准教授、長谷川助教)
金曜 / 8時30分-12時30分
(高原講師、片桐助教)
14時-16時30分(高原講師)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植（生体・脳死）など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。2016年4月からは腹腔鏡下膵頭十二指腸切除も保険収載されたことより、腹腔鏡下膵切除も積極的に行っております。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて90例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定されました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。このことより長期成績も向上しております。

平成29年 診療・研究状況報告

●手術数：253例

●腹腔鏡下手術の割合

肝切除(肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く) 63%、膵切除 12%

●平成29年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	38例
転移性肝癌	34例
肝内胆管癌	6例
胆管癌	25例 (肝門部9例、肝外16例)
胆嚢癌	14例
乳頭部癌	3例
膵癌 (IPMC含む)	30例

▶良性

生体肝移植ドナー、pNET、IPMNなど	61例
----------------------	-----

▶その他

脾腫瘍など	41例
-------	-----

《術式別》

脳死肝移植	0例
生体肝移植	14例
肝切除	114例
PpPD	47例
膵体尾部切除	14例
膵全摘	5例
膵部分切除	1例

胆管切除	2例
胆石、胆嚢良性疾患手術	17例
バイパス (胆管、消化管)	2例
脾摘	2例
肝嚢胞天蓋切除	4例
非切除	3例
その他	42例

《年次推移》

	2015	2016	2017
肝細胞癌	34	29	38
肝内胆管癌	8	4	6
転移性肝癌	33	38	34
胆管癌	16	20	25
胆嚢癌	1	3	14
乳頭部癌	5	2	3
膵癌	38	31	30
脳死肝移植	2	3	0
生体肝移植	7	9	14

●平成29年研究報告

- ・「腹腔鏡下肝切除の肝門部流入血遮断に対するステロイド投与に関する臨床試験」
- ・「Muse細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基盤構築」
- ・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」
- など

下部消化管チーム

STAFF：大塚幸喜、木村聡元、松尾鉄平、佐藤 慧
近藤 優、高清水清治
ストーマ外来(WOCN)：千葉励子、高橋咲子

専門外来
月曜 8時30分～15時
火曜 10時30分～12時
水曜AM・金曜AM
外来化学療法のみ
ストーマ外来
月曜



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2017年12月までに2000例を超えました。現在の当教室の腹腔鏡手術の適応は、周囲臓器浸潤のない症例数としております。ここ数年の特徴としては、局所進行直腸癌症例に対し、術前化学療法を行い腹腔鏡手術による腹腔鏡の拡大視効果を最大限に生かした根治性、そして機能温存手術を行っております。さらに、腹腔鏡手術の低侵襲性を生かし、高齢者や全身状態不良な患者さんに対しても、麻酔科とタッグを組んで積極的に行っており、腹腔鏡手術を開始した1997年からこれまでに、手術関連死亡は経験しておりません。また、当グループ内には日本内視鏡外科学会技術認定医2名が在籍していることもあり、安全で根治性の高い手術を提供できると自負しております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し、木村聡元講師を中心に行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子 WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）2名でストーマ教育を行っており、精神面からもサポートさせていただいております。

潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんのQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

教育面に関しては、若手外科医に対しての腹腔鏡手術の指導を積極的に行っており、2017年までに8名（合格率100%）の内視鏡外科技術認定医合格者（大腸分野）を輩出してきました。また全国各地からの国内留学生（9名）や全国からの手術見学者（146施設）に対しても大学の協力を得て指導を行っております。

当チームにおける全初発大腸癌手術に対する腹膜鏡下手術の割合は91%でした。

平成29年のニュース

- 3月▶ 第33回岩手ストーマ研究会開催
- 4月▶ 木村聡元先生が特任講師に昇任
- 4月▶ 松尾鉄平先生、佐藤慧先生が助教として帰局
- 5月▶ 愛知県から国内留学として近藤優先生がチームに加入
- 9月▶ 第11回北東北LAC情報交換会開催
- 12月▶ 外科忘年会余興で3連覇達成
- 12月▶ 腹腔鏡大腸癌手術数通算2000例突破。年間腹腔鏡手術も213例と過去最高

平成29年 診療・研究状況報告

●手術数（全麻）：296例 *そのうち大腸癌手術は244例
《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（130例）	開腹	6例
	腹腔鏡	124例
直腸癌（104例）	開腹	11例
	腹腔鏡	89例
	経肛門	4例
Crohn病（7例）	開腹 / 腹腔鏡下手術 / 経肛門	1例 / 4例 / 2例

潰瘍性大腸炎（2例）	開腹 / 腹腔鏡下大腸全摘	0例 / 2例
他（ストーマ造設・ストーマ閉鎖・他科手術応援など）		53例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2015年	2016年	2017年
結腸癌全手術数	100	122	130
直腸癌全手術数	109	97	104
計	209	219	234
腹腔鏡下大腸癌手術	179	207	213

●平成29年研究報告

《教室内》

- ・「高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌」: Surg Today 47: 587-594, 2017 (大塚)
- ・「腹腔鏡下大腸癌手術の臍部小開腹創部位を標準化するための検討」: Int J Colorectal Dis 32: 715-722, 2017 (八重樫)
- ・「腹腔鏡下大腸癌手術における術前腸管前処置の検討」: 海外ジャーナル投稿中 (木村)
- ・「直腸癌に対する腹腔鏡手術の難易度評価」: 学位論文 岩手医誌accept (畑中)
- ・「肥満大腸癌患者に対する術前減量の安全性と有効性の検証」: 腹腔鏡手術予定の肥満大腸癌患者を対象に、手術難易度の軽減化と周術期合併症を予防するために、計画的な術前減量による栄養学的安全性を明らかにすることを目的とする。: 学位研究 (高清水)

《全国多施設共同研究》

▶JCOG

- ・1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第III相試験」: 症例集積中

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

- ・「肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第II相試験-ULTIMATE TRIAL-」: 解析中
- ・StageIV大腸癌に対する腹腔鏡手術の意義: 論文投稿中
- ・横行結腸癌、下行結腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除の後向試験: Asian J Endosc Surg 10: 268-275, 2017
- ・下部進行直腸癌に対する腹腔鏡手術の意義: Ann Surg, Published online: 2017

●今後の研究課題

▶臨床面

- ・再発直腸癌への積極的な腹腔鏡手術
- ・腹腔鏡下側方郭清手技の定型化

▶教育面

- ・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

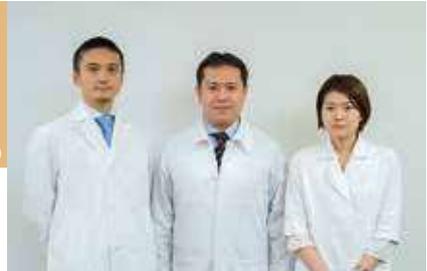
▶研究面

- ・学会発表、研究成果の論文化
- ・大学院生への研究・学位指導

乳腺チーム

STAFF：小松英明、石田和茂、川岸涼子
松井雄介（関連病院出向中）

専門外来
火・水曜
8時30分～17時
プレステケア外来
火曜
15時～16時（要予約制）



乳腺グループは平成29年度より乳腺専門医が小松、川岸の2名となりました。これにより、皮膚拡張期を用いた乳房再建術が再開することができ、患者様のニーズに伴い着実に症例数を伸ばすことができております。第二期がんプロ（がんプロフェッショナル養成推進プラン）がH.28年度を持って終了となりましたが、順天堂大学乳腺科の齊藤光江教授の御高配のもと、順天堂大学、順天堂大学浦安病院、順天堂大学静岡病院、鳥取大学とICTをつないで隔月ではありますが、各施設での研究の取り組み、症例検討を行っております。またオール岩手での診療を目指すべく、月1回のキャンサーボードミーティングも他職種のみだけでなく、岩手県立中央病院乳腺・内分泌外科とも合同で行っております。日常診療のみならず、引き続きJCOG、JBCRG、CSPORといった日本を代表する臨床試験グループ、また米国の臨床試験グループのNRG Oncology、さらには開発治験にも積極的に参加し、患者さんに最新、最良の医療を提供するよう、日々精進してまいります。同門の先生方には一層の御支援、御指導、御鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

平成29年のニュース

- 3月 ▶ 日本乳癌学会地方会発表（小松、石田、川岸）
15th St. Gallen International Breast Cancer Conference (Vienna, Austria) 参加、ポスター発表（小松）
- 7月 ▶ 第25回日本乳癌学会学術総会（福岡）にてポスター発表（小松、石田、川岸）
- 9月 ▶ 岩手医科大学創立120周年記念イベント健康フェス2017にて、腫瘍センター企画による市民公開講座「これってほんと!! ～乳がんについて正しい知識を得よう～」講演（小松）
日本外科学会専門医予備試験合格（石田）
- 10月 ▶ エフエム岩手／岩手医科大学～いのちから～出演（小松）
第16回日本癌治療学会市民公開講座（乳がん部門講演 小松）
第55回日本癌治療学会学術集会ワークショップにて口演発表（小松）
- 11月 ▶ がん治療認定医試験合格（川岸）

平成29年 診療・研究状況報告

● 総手術数：136例

《内訳》

疾患	術式	症例数
原発性乳癌	乳房部分切除術	57例
	胸筋温存乳房切除術	55例
	乳腺全摘術	3例
	胸筋温存乳房切除術 + 組織拡張期留置	8例
	乳頭乳輪温存乳腺全摘術 + 組織拡張器留置	2例
計		125例
その他（良性、追加切除等）		11例
合計		136例

● 平成29年研究報告

《全国規模》

- ・ Cinderella 研究会：手術可能乳癌患者を対象としたフローズングローブ、弾性ストッキングの nab-paclitaxel による末梢神経障害予防効果の検討（Phase II、SPOT trial）
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1017（PRIM-BC）「薬物療法非抵抗性 Stage IV 乳癌に対する原発巣の意義（原発巣切除なし vs あり）に関するランダム化比較試験」
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204（INSPIRE）「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローの比較第 III 相試験」

- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験（N-SAS BC 06）」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験（N-SAS BC 07）」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-C05（B-SHARE）「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-M04（BOOSTER）「ホルモン陽性HER2進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ+パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第III相臨床試験」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-20（Neo-Peaks）医師主導治験「HER2陽性乳癌におけるペルツズマブとトラスツマブエムタンシンを用いた術前療法の検討（ランダム化第II相試験）」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-M05（PRECIOUS）「HER2陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第III相臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－」
- ・OlympiA 試験「十分な局所性治療及び術前補助療法又は術後補助療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第III相試験」
- ・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ（ペルツズマブに対し盲検）の併用の有効性及び安全性をトラスツマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際他使節共同第III相ランダム化3群比較試験（MARIANNE 試験）」
- ・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後補助療法としての化学療法+トラスツマブ+プラセボと化学療法+トラスツマブ+ペルツズマブの2群比較第III相ランダム化試験（APHINITY 試験）」
- ・NRG Oncology：NSABP B-51/RTOG 1304「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第III相無作為化臨床試験」

● 今後の研究課題

- ・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
- ・次世代シーケンスを用いた血中遊離DNA中に存在する乳癌ゲノム異常の検出、解析
- ・新たな乳腺外科医育成

小児外科チーム

STAFF：水野 大、有末篤弘（～2017.5）
小林めぐみ（2017.6～）、川島到真（2017.4～）

専門外来

火曜
9時-12時



一般小児外科外来：慢性的なマンパワー不足のため、新患、再来とも原則として火曜日の9時から12時のみを一般小児外科外来診察時間としております。しかし、都合のつかない患者様、他科の受診日と合わせたい患者様などにつきましては、火曜日以外の曜日や時間も手術、検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただいておりますのでご連絡ください。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケアや洗腸による排便コントロールの指導等をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成29年のニュース

- 3月 ▶ 小林めぐみが第一子出産
- 3月 ▶ 弘前大学小児外科への手術支援終了
- 4月 ▶ 川島到真が岩手県立中部病院より入局、小児外科専門研修開始
- 6月 ▶ 有末篤弘任期付き助教が盛岡赤十字病院に転出
- 6月 ▶ 小林めぐみが助教として大学に復帰

平成29年 診療・研究状況報告

● 入院数：197例 マンパワー不足のため多くの症例を小児科入院として治療

● 手術数：252例（うち内視鏡下手術57件、22.6%）

《内訳》 重複あり

疾患	術式	症例数
新生児症例		20例
悪性腫瘍	生検含む	3例
鼠径ヘルニア類縁疾患		76例
消化器・肝胆膵疾患		68例
呼吸器/泌尿器疾患		13例/28例

《年次手術数推移》

	2015年	2016年	2017年
新生児	22	26	20
非新生児	229	190	232
計	251	216	252

関連施設・他大学での手術：約50例

● 平成29年研究報告

《教室内》

- ・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発
- ・門脈血流測定による新生児腸管虚血の早期発見

《全国規模》

- ・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
- ・JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ
- ・JWiTS3 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ
- ・JCCG 日本小児がん研究グループ

● 今後の研究課題

- ・門脈血流測定による新生児消化管穿孔の予防

リサーチチーム《分子治療研究室》

STAFF：岩谷 岳

専門
外来

外来なしの
24時間営業



前任の西塚哲先生が医歯薬総合研究所医療開発研究部門教授に就任され、2017年1月より新体制でスタートしております。現在は臨床の各グループより有志とともに血液検体からの癌の病勢診断（リキッドバイオプシー）の研究を中心に行っております。今後、研究室に配属予定の大学院生とともに研究の幅を広げていく予定です。関連病院へ出張中の先生方もスカイプで研究進捗会・抄読会に参加し、研修日や休日に研究室で実験を進めている先生もおります。学外の先生でも興味のある方はいつでもお声かけください。

平成29年のニュース

- 3月 ▶ 伊藤千絵先生、天野総先生 学位取得
- 4月 ▶ 岩谷、遠藤史隆先生、西塚哲先生、久米浩平先生、アメリカ癌学会にて発表（Washington）
岩谷、秋山有史先生、片桐弘勝先生 科研費（基盤C）獲得
岩谷 圭陵会共同研究助成、川岸涼子先生 圭陵会個人研究助成獲得
久米浩平先生 米国留学へ
- 5月 ▶ 6年生（今田明里さん、小泉優香さん）米国ジョージメイソン大学（西塚哲先生留学中）で研修…小泉さんは外科入局決定！
- 8月 ▶ 佐藤慧先生 中外製薬研究助成獲得
岩谷、西塚哲先生 先進ゲノム支援研究助成獲得
- 9月 ▶ 3年生（2名）研究室配属
- 10月 ▶ 4年生（1名）研究室配属
- 12月 ▶ デジタルPCR機器購入（それまで国立がんセンターの機器を借用しておりましたが、講座内での解析が可能となりました！）

平成29年 診療・研究状況報告

●平成29年研究報告

- 血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発（岩谷）
- 大腸癌・胃癌の原発巣 heterogeneity が ctDNA 診断に及ぼす影響（八重樫、佐藤、千葉）
- Circulating tumor DNA を用いた乳癌術前化学療法の逐次的効果判定法の開発（川岸）
- 食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討（佐々木教之）
- 肝芽腫発生に関わる遺伝子異常の解析（有末）
- 食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析（佐々木教之）
- 胃癌・食道腺癌における ctDNA を用いた高感度診断システムの開発（千葉）
- 大腸癌抗 EGFR 抗体療法中の RAS 変異発生機序解明および ctDNA 診断の意義（松尾）
- 大腸癌の予後に関連する non-coding RNA *FTX* に関する検討（秋山）
- 消化器癌治療後再発抑制を目指した統合的機能解析（西塚）
- 血中遊離 DNA が反映する進行胃癌の多様性（西塚）
- 膀胱癌の ctDNA を用いた病巣拡大範囲予測および化学療法治療効果に関する検討（新田）

●今後の研究課題

現在各臓器グループで進行中のリキッドバイオプシー研究は、検体採取、保存、網羅的遺伝子変異解析、良質な血漿DNA抽出、血漿中変異DNA定量、など各ステップで様々な問題にあたりましたが、ようやくスムーズで安定した解析が可能となってきました。他施設や関連病院との連携もとりやすくなりましたので、今後共同研究を広げていきたいと思っております。

高度救命救急センター 《救急・災害・総合医学講座》 救急医学分野

STAFF：小鹿雅博、石田 馨、佐藤寿穂、佐々木秀策

専門外来

24時間体制



専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力が深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2017年当グループにおける全手術に対する腹腔鏡手術を第一選択とした割合は39%でした。

平成29年 診療・研究状況報告

●入院数：159例

●手術数：88例

《内訳》

疾患（内因性）	術式	症例数(例)
上部消化管穿孔	腹腔鏡下術	2
イレウス	腹腔鏡下術：開腹	7：1
虫垂炎	腹腔鏡下術：開腹	17：2
下部消化管穿孔	開腹術	8
急性虚血性疾患	腹腔鏡下術：開腹	1：1
嵌頓ヘルニア	腹腔鏡下術：開腹	1：5
その他	腹腔鏡下術：開腹	6：30
		症例
気管切開術		3
大動脈遮断術		3
開胸術（外傷）		1

《Management》

	症例
Non Operative Management	27
Open Abdominal Management	11

●平成29年研究報告

《教室内》

- ・敗血症に対する人工臓臓を用いた血糖管理（継続）
- ・輸液負荷に伴う血糖値変化の後方視的研究（継続）
- ・食道穿孔の治療成績と経験についての後方視的研究（新規）
- ・Open Abdominal Managementの検討（新規）
- ・絞扼性イレウスに対する治療と管理（新規）
- ・重症敗血症患者に対する至適血糖管理値の明確化を目的とした臨床評価（研究グループ：盛岡友愛病院、刈谷豊田総合病院、福岡大学、藤田保健衛生大学）（継続）

岩手医科大学附属花巻温泉病院

STAFF：飯島 信、塩井義裕

専門外来

月曜・火曜・木曜・金曜・土曜外来／塩井義裕、第二・第四水曜／菅野公德先生、月曜・木曜午後／手術



平成26年4月に当院に赴任された飯島信先生が、平成29年3月にご実家の飯島医院の引継ぎのためにご退職されました。3年間、当院の外科診療を支えてくださり、ありがとうございました。

当科は私外科医一人体制となりましたが、細井信之先生が手術応援、菅野公德先生が外来応援をしてくださり、外科手術はこれまでと変わりなく行っております。昨年は、同門の大先輩である佐々木盛光先生や菅澤治彦先生をはじめ、本学出身の花巻市医師会の先生方から多数のご紹介をいただき、手術症例も1.4倍に増加いたしました。また、細井信之先生のご指導のもと腹腔鏡手術に力を入れ、全身麻酔手術に対する腹腔鏡手術の割合は8割を超えました。最近ではドライラボでの特訓の成果を生かすべく、可能な疾患で体内結紮縫合に力を入れております。

平成29年10月には、小川彰理事長より当院が平成31年3月に閉院の方向であることが示されました。今後、当院の病床は縮小傾向にはなりますが、救急告知病院の看板は下ろさず、手術室も稼働し続けます。昨年1月には常勤医は9人で、今年1月の常勤医は6人となりましたが、病院職員の士気は高く、昨年の救急車受け入れ台数は前年比の1.3倍に増加しております。これは大学の激務のはざまに当直応援にきていただいた天野怜先生、棚橋洋太先生、畑中智貴先生、高清水清治先生のご協力があつてのことです。

当院は、平成5年に大学附属病院として花巻の地に開院し、25年にわたり通院・入院された患者様がおり、25年間支えてくださった医療関係者の方々がおります。当院は平成31年3月に平成の時代とほぼ時を同じくして閉院いたしますが、最後の入院患者さんが退院されるまで、最後の外来患者さんがお帰りになられるまで、当院でできる最善の医療を提供いたします。当院での治療をご希望される患者様がございましたらどうぞご紹介ください。

平成29年のニュース

- 3月▶当科で3年間ご勤務された飯島信先生がご退職
- 4月▶塩井が文部科学省科学研究費基盤Cを獲得
- 9月▶当院がTBS月曜名作劇場のロケ地となり撮影が行われる
- 10月▶当院が平成31年3月で閉院の方向性が示される
- 12月▶外科学講座座年会に花巻温泉病院チームが数年ぶりに参加、オープニングを飾る

平成29年 診療・研究状況報告

- 入院患者数：146例
- 全手術数：93例
- 全身麻酔手術数：64例
- 腹腔鏡手術数：54例

腹腔鏡手術数／全身麻酔手術数 = 84%

《内訳》

	術式	症例数	症例数
ヘルニア	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	29	35
	腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア手術	3	
	腹腔鏡下臍ヘルニア手術	1	
	腹腔鏡下大腿ヘルニア手術	1	
	腹壁癒着ヘルニア手術(単純閉鎖)	1	

腸	腹腔鏡下大腸手術	9	15
	腹腔鏡下腸瘻造設術	2	
	腸瘻造設術	1	
	イレウス解除術	1	
	腹腔鏡下小腸部分切除術(空腸異物)	1	
	人工肛門閉鎖術	1	
胆道	腹腔鏡下胆嚢摘出術	6	7
	総胆管切開術	1	
胃	胃全摘術	2	3
	幽門側胃切除術	1	
乳腺	乳房腫瘍切除術	3	3
肝	腹腔鏡下肝部分切除術	2	2
その他	CVポート造設術	4	28
	直腸脱術後テープ除去	1	
	その他局所麻酔	23	

◆ 入院患者分類

疾患	例数
顔面・頸部	0
甲状腺・上皮小体	良性 13
	悪性 0
乳腺	良性 2
	悪性 134
食道	良性 1
	悪性 217
胃・十二指腸	良性 1
	悪性 197
大腸・肛門	良性 36
	悪性 276
肝・胆・膵・脾	良性 124
	悪性 244
イレウス	23
虫垂炎	12
ヘルニア・腹壁・腹膜	18
副腎	10
病的肥満	63
その他	37
入院者合計	1,408

◆ 関連病院手術件数

病院	全手術数	全身麻酔手術数	急患手術数	腹腔鏡下手術数	甲状腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1,628	1,292	201	733	12	149	0	32	106	25	41	276
盛岡赤十字病院	757	714	117	338	5	35	0	2	37	10	5	79
盛岡市立病院	588	516	66	393	0	4	0	0	36	11	6	83
八戸赤十字病院	471	401	40	140	5	33	0	0	37	8	4	104
能代厚生医療センター	392	362	64	276	4	35	0	0	39	11	10	74
県立宮古病院	341	285	98	82	0	12	0	0	19	1	1	19
県立釜石病院	308	227	29	79	2	6	0	0	19	3	2	55
県立久慈病院	464	333	86	157	1	21	1	0	25	7	7	61
県立二戸病院	310	251	49	75	1	23	0	0	16	4	4	53
県立千厩病院	184	147	31	52	0	9	0	0	8	0	0	26
かつの厚生病院	234	177	18	113	3	11	3	0	20	31	1	70
北上済生会病院	158	92	5	55	0	11	0	0	1	0	0	0
県立江刺病院	122	54	13	21	0	7	0	0	3	0	0	9
花巻温泉病院	93	64	5	54	0	0	0	0	3	0	2	7

◆ 手術件数

	件数
全麻数	1,157
局麻数	93
その他	0
全手術数	1,250

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2020. 12	指定	能代厚生医療センター	～ 2019. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2020. 12	関連	八戸赤十字病院	～ 2018. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2020. 12	関連	かづの厚生病院	～ 2018. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2018. 12	関連	岩手県立千厩病院	～ 2018. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2019. 12	関連	岩手県立江刺病院	～ 2018. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2020. 12	関連	国保西根病院	～ 2018. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2020. 12	関連	内丸病院	～ 2018. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2018. 12	関連	岩手医科大学附属 花巻温泉病院	～ 2018. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2018	指定	岩手県立久慈病院	～ 2018
指定	函館五稜郭病院	～ 2020	指定	盛岡市立病院	～ 2018
指定	盛岡赤十字病院	～ 2018	指定	能代厚生医療センター	～ 2019

外科学講座

屋成 信吾



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2017年

出身地：埼玉県 座右の銘：一日一歩

岩手医科大学外科に入った理由：

大学入学当時から外科に興味がありました。病院実習でも外科の先生方が患者に向き合う姿勢、手術に取り組む姿を見て、このような先生方の背中を目標に修練を積みたいと思い、入局を決めました。

現在、八戸赤十字病院で初期研修中です。様々な診療科を回りながら、日々勉強させていただいております。まだまだ未熟で先生方にたくさんご迷惑をおかけすると思いますが、先生方の知識、技術、姿勢の一つでも身につけられるように精進していきますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

外科学講座

木村 拓



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2017年

出身地：岩手県上閉伊郡大槌町 座右の銘：初志貫徹

岩手医科大学外科に入った理由：

私は臨床実習が始まるまで、外科・内科のイメージが漠然としており、専攻は決まっていませんでした。医学部5年生より臨床実習が始まり初めて手術を見学させて頂いた時、手術をしている先生方の姿に感銘を受け、その頃から外科系に進みたいと考えるようになりました。他の外科系と迷った時期もありましたが、外科学講座の先生方の優しさや教育の熱心さに触れ、ここで働きたいと思い入局を決意しました。

また、共に入局する仲間も多く心強くもあります。

これから沢山ご迷惑をお掛けすることになるとは思いますが、一生懸命頑張らせて頂きます。何卒宜しくお願ひ致します。

外科学講座

藤澤 良介



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2017年

出身地：岩手県盛岡市 座右の銘：為せば成る、為さねばならぬ何事も

岩手医科大学外科に入った理由：

大学5年生の臨床実習で各科を回った中で最も興味を引かれたのが外科でした。6年生の選択実習でも外科を選択させていただき、外科の先生方の熱意、技術、そして仕事に対する姿勢に憧れを抱きました。その中で外科に入らないかというお言葉をいただき入局を決意いたしました。

現在私は函館五稜郭病院で初期臨床研修医として研修させていただいております。今は外科のみならず多くの科でご指導いただいております。各科を回れる今の環境を最大限に生かし、多くの知識、技術を吸収し今後外科として生かしていけるよう努力してまいります。まだまだ未熟な私ではありますが、変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野 特任教授に就任して

下沖 収

この度、平成29年4月1日付で、岩手医科大学医学部救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野の教授を拝命いたしました。伝統ある岩手医科大学において、初めての総合診療医学分野を担当させていただくことは身に余る光栄であります。ここまでご支援いただきました佐々木章教授、巖刀会の諸先生方に心からの感謝を申し上げます。また、昨年7月9日に行われました私の就任祝賀会に際しましては、ご準備下さいました佐々木章教授はじめ教員の皆様、ご多忙中ご出席賜りました巖刀会の先生方に改めて心よりの御礼を申し上げます。ありがとうございます。

ここで述べるまでもなく、わが国におきましては領域別専門医による高度専門医療の発展が図られ、目覚ましい成果を上げております。その一方で超高齢社会へ突入し医療ニーズが変化、社会保障費の増大や医療資源の地域偏在などが大きな課題となっており、医療提供体制の転換が迫られる中、総合診療医の役割が重要視されるようになって参りました。地域医療現場では以前より総合診療の必要性が認識され、特に医師不足地域においては大きな期待が寄せられてきました。加えて地域包括ケアシステムの中において、横断的視野でヘルスケアを担う総合診療医の活躍が大いに期待されております。一方で、専門医療が充実した大学病院においても複数の疾患や複雑な問題を抱える患者さんや受診科に迷う患者さんへの対応も求められます。全人的・包括的視点で患者さんに向きあう総合診療と領域別専門医療が密に連携することで、大病院においても効率的で満足度の高い医療が提供できるものと思います。さまざまな医療場面において患者さんや地域に寄り添うマインドを持った総合診療医の養成は時代のニーズであり、そのような使命を賜ったことに今更ながらに責任の重さを感じております。

私は、昭和63年に自治医科大学を卒業し、岩手県立中央病院で初期臨床研修を行いました。その後旧第一外科の同門に加えていただき、県立釜石病院（日下純男院長）を皮切りに関連施設で外科修練を積ませていただきました。へき地勤務期間中も医局、同門の先生方にいろいろな場面

でご指導いただきました。

9年間の義務履行後、平成9年度からの2年間は、斉藤和好教授のご高配により旧細菌学教室（佐藤成大教授）で基本的な分子生物学的手法、腸管出血性大腸菌O-157の血清抗LPS抗体や抗Vero毒素抗体測定系、Vero毒素を抗原とする抗体作成など基礎医学の一端に触れ、また第一外科では胃悪性腫瘍グループで手術や診療の他、がん免疫に関わる研究もご指導いただきました。平成11年度からの県立久慈病院16年間では、消化器がんや乳がん等の一般外科疾患の手術・抗がん化学療法や緩和ケア、救急医療、地域がん診療連携拠点病院認定、院内感染対策地域連携、初期研修医カリキュラム、手術室室長、病院機能評価推進などのさまざまな機会と役割を与えていただきました。平成27年4月に県立千厩病院長を拝命し、医師不足であっても地域のニーズに応えるために最も重要なことは、「総合診療マインド」であることを再認識させられました。

これまでの29年間を振り返ってみますと、どれもこれも中途半端であった気がしてなりません。幅広い医療現場で与えていただいた経験は、総合診療医育成という大きな使命を果たす中で必ずや役立つものと信じております。今後は、この分野において一意専心の思いで取り組んで参りたいと考えております。また、研究においては、総合診療の幅広いフィールドを活かした臨床研究の他、地域やへき地における疾病予防・健康増進などについて、関連する講座・施設にご協力を仰ぎながら岩手の総合診療医学ならではの研究を進め、発信できるような教室を目指して参りたいと思います。現在、スタッフは2名ですが、まずは付属病院での診療を開始し、学生や研修医に対して総合診療・地域医療の魅力を伝える足場をしっかりと固めて参りたいと考えております。来年度は、スタッフ増員の見込みがあるもののまだまだ十分な体制とはいえず、診療、教育、研究いずれの面においても、外科学講座ならびに巖刀会の先生方のご支援がなくては立ちゆきません。どうか、これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



第35回日本肥満症治療学会学術集会終了報告

佐々木 章

第35回日本肥満症治療学会学術集会を、2017年6月23日（金）から24日（土）の2日間、盛岡のアイーナ（いわて県民情報交流センター）で開催させていただきました。本会の開催に当たりまして、日本肥満症治療学会理事長の白井厚治先生と本学会会員、そして、巖刀会の皆様にも多大なご支援をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

今回の学術集会のテーマは、「promising evidence & patient care」としました。一つのテーマである「promising evidence」では、日本から世界に向けて将来有望なエビデンスを発信できる様に、日本人の肥満症治療を通じてわかってきた研究成果と治療法について、活発に議論していただきました。もう一つのテーマである「patient care」では、明日からの肥満症治療におけるチーム医療の向上と発展に寄与できる内容を、多職種から発表していただきました。

わが国では、肥満症に対する基礎的・臨床的研究の一層の充実を図る日本肥満学会（JASSO）があります。一方で日本肥満症治療学会（JSTO）は、肥満症の治療を中心に、基礎的・臨床的な研究と討議から科学的で適切な治療指針を見出し、有効かつ安全な肥満治療、合併症予防と健康回復に寄与することを目的としています。肥満症に対する研究の推進と診療能力の向上は表裏一体であり、肥満症に対して適切で安全な診療を多職種とともにチームで実践し、また、一般市民への普及を考えた場合には両学会の連携は

重要と考えています。「promising evidence」はJASSOを、そして「patient care」はJSTOを意識し、両学会の融合の願いも込めてこのテーマにしました。また、JSTOとしては初めてJASSO/JSTO Joint Symposium（これからの医療における肥満症の位置づけ）を企画でき、非常に嬉しく思っています。今後もJASSO/JSTO Joint Symposiumが継続して企画されていくことを祈念します。

第35回学術集会の主題についてはプログラム委員の先生方からご提案いただきましたテーマを多く取り入れて演題を公募した結果、総演題数169題（講演・上級演題79題、一般演題90題）と過去最多のご応募をいただきました。

また、参加者も450名を超え、過去最多の参加者のもとで学会を盛会のうちに終えることができました。ご参加いただきました会員の皆様には心よりお礼申し上げます。

最後に、第35回学術集会が会員の記憶に残り、教室員の大きな誇りになることを願っています。



会長講演



閉会式

巖刀会学術賞を受賞して

片桐 弘勝

この度は2017年度の巖刀会学術賞を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。本論文“A Distinct Subpopulation of Bone Marrow Mesenchymal Stem Cells, Muse Cells, Directly Commit to the Replacement of Liver Components”は、American Journal of Transplantation誌において2016年に掲載されました。

本論文は、物理的な肝損傷モデルを作成したマウスに対し、ヒト骨髄間葉系細胞由来の多能性幹細胞であるMuse細胞分画と、Muse細胞を除く間葉系細胞分画を移植し組織修復への関与を検討した研究です。間葉系幹細胞のなかでも、Muse細胞のみが損傷肝に遊走・定着し、肝組織を構成する各細胞分画へ分化することができ、損傷肝において専有的に修復に関与することを世界で初めて示すことができた点で、非常に意義のある論文であると思います。

本研究を進めるにあたり、外科分子治療研究室の久米浩

平先生、病理学講座病理病態学分野および病理診断学講座のスタッフ皆様に技術的サポートを頂いたことは、基礎研究を初歩から始めた自分にとって非常に実りあることでした。東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野の出澤真理教授とスタッフ皆様には、共同研究としてMuse細胞の基礎から取り扱い、特殊染色などお力添え頂きました。また、本論文を書くことをできましたのも、西塚哲教授の幅広い知識と先見の明によるところが非常に大きいと考えております。ご指導、ご支援いただきました全ての方に深く感謝申し上げます。本研究を基盤として科学研究費助成を頂くこともできました。臨床において修練の最中ではありますが、研究にも邁進いたしますので、今後ともご指導・ご鞭撻どうぞ宜しくお願いいたします。



国内留学レポート

近藤 優

まず初めに、このような機会を与えて受け入れてくださった佐々木章先生、大塚幸喜先生、木村聡元先生、外科学講座の先生方に感謝申し上げます。

私は平成16年に藤田保健衛生大学医学部を卒業し、卒業後は愛知県内の市中病院で外科医として勤務して参りました。

前任地では進行癌が多かったため腹腔鏡手術は多くはなく、開腹手術はある程度自信をもって行っていました。腹腔鏡手術に対してはどうしても苦手意識がありました。学会・講習会で学び、他施設へ手術見学にも行きましたが、実際それだけではなかなか身につけませんでした。腹腔鏡手術では特に定型化が重要であり、腹腔鏡手術の盛んな施設のチームに属したほうがいいのではと思うようになりました。そして数年前から再び腹腔鏡手術の基礎を一から学ぼうと考え、日本各地のがんセンターや大学病院、有名病院などハイボリュームセンターを研修先として探していました。



その時に東京で行われた講演会に参加して大塚先生の講演・手術動画を見たことが今回の留学先を決めるきっかけとなりました。全国に名が知られている先生なので大塚先生の名前は知ってはいましたが、初めてその時にしっかり手術をみました。超音波凝固切開装置を使ってすごくきれいに手術する先生だなあというのが第一印象であり、また技術認定医取得に対する教育の話も興味深かったのを覚えています。そして発表の最後に「いつでも短期・長期留学の相談は受け付けていますので」ということを言われたので年次的にも最後のチャンスと考え大塚先生にメールさ

せて頂きました。岩手医科大学は腹腔鏡下手術のメッカであり各学会や講習会で岩手医大の先生方が積極的に発表されていることは以前から知っていましたが、愛知県生まれの愛知県育ちで、大学生生活・勤務地も愛知だったため研修としてまさか自分が岩手県に来るとは思ってもみませんでした。胃や腸だけでなく肝胆膵、乳腺、内分泌、救急も行う一般外科医でしたので、特に大腸と決めていた訳ではありませんでしたが、大塚先生の手術動画を見て“目からうろこ”状態となり、この先生の手技を少しでも多く吸収したい、わたくしの腹腔鏡手術の師にしようと考えようになりました。その半年後に手術見学で初めて東北の地を踏み、翌年度から下部消化管グループに所属しています。

下部消化管グループの日常診療はスタッフ6名で行っており、手術日は基本的に水木金の3日間で、週5～6件(年間総手術件数:約230件)あります。火曜日の午前は全グループでの合同カンファランスを行っており、大腸疾患だけでなく大学病院ならではの多岐にわたる疾患について学ぶことができます。

現在大腸癌のほぼ全例に腹腔鏡手術を行っており、側方リンパ節郭清や他臓器合併切除等の拡大手術、炎症性腸疾患の腹腔鏡下手術も多く施行しています。また腹腔鏡手術だけでなく進行直腸癌に対する集学的治療や術前化学療法などleading hospitalとしての役割も果たしています。

研修が始まってからの印象ですが、手術のセッティングから手術開始までがとてもスムーズで、手術は執刀医と助手との連携がとても良好でした。難しい場面においても非常に丁寧な手術操作であり、実に簡単そうに行われているように見えました。手術自体が簡単というわけではなく、手術の定型化が完全に行われており安定した手術成績を残すには術者のみならずチーム全体の習熟が必須であることも実感しました。研修ですがスコピストから始めて今で



は執刀もさせてもらっています。術中の疑問点などは大塚先生や木村先生にすぐに聞けるというすばらしい状況であり、腹腔鏡手術を学ぶ環境としては申し分ありません。

県内の他の病院への出張等もあるため人員はギリギリであり、日常業務は忙しいですが辛いという印象は全くありません。チーム内はとても仲が良く、松尾先生、佐藤先生とは仕事だけでなく筋トレを一緒にしたり、みんなで飲みに行ったりとたいへん楽しく過ごしています。忘年会の出し物でも前人未達の3連覇を果たし、そういったチームの団結力が仕事面でも良好な結果が残せている秘訣ではないかと考えています。

また初めての岩手県の生活ですが、来てすぐに思ったことは街の人はやさしく温かい人が多いなあということでした。今では地元との習慣の違いも楽しむことができ、知らなかったホヤや山菜にはまり、子供の頃からの夢であった氷の上でのワカサギ釣り(岩洞湖)、これまで味わったことのない良質なパウダースノーでのボードと仕事以外でも楽しく過ごすことができています。

まだ研修は一年ありますが、腹腔鏡手術において第一線の病院で仕事が出来ているというやり甲斐を感じながら、これからもoncologyの考え方や優れた手術を少しでも多く学ぼうと思っています。研修後は岩手医大での経験を少しでも多くの手術で還元していき、よりよい医療を行うべく日々精進しようと考えています。

海外研修報告

海外研修報告-IRCAD台湾

高清水 清治

台湾の腹腔鏡手術トレーニングセンター「IRCAD Taiwan」にて研修する機会をいただきましたのでご報告いたします。IRCADは1994年にフランスのストラブルグ大学

に設立され、腹腔鏡手術の普及に世界的



に貢献してきた組織です。2001年にはストラスブルグ大学の professor Marescaux が”Lindbergh 手術”を行いました。これはニューヨークでロボット手術を行う Professor Marescaux がフランスにいる患者に対して腹腔鏡下胆のう摘出術を行ったものです。これはまるで、1927年に Charles Lindbergh がプロペラ機でニューヨークからパリの大西洋単独無着陸飛行を成功させたような画期的な出来事でした。IRCAD は腹腔鏡のトレーニングセンターをフランスだけでなく、2008年に台湾、2011年にブラジルにも設立し、全世界から腹腔鏡手術のオペレーターを受け入れています。2017年春に佐々木教授より当教室からも IRCAD への参加が可能とのお話があったため、参加を希望いたしました。フランス、台湾、ブラジルのどのコースにも参加できたのですが、これまでアジアを旅行することが多かったため、親近感があること、移動時間、時差が少ないことから、台湾を希望しました。

台湾では2017年までに50カ国から指導者としては800人、参加者として5000人を超える外科医の参加を得ています。コースは臓器別に多数ありましたが、私は General Surgery Course を選択しました。その理由は、本コースでは腹腔鏡手術の道具の基本から複数の臓器の術式の基本について学ぶ機会があったためです。普段行なっていること、先生方から習っていることのごまが海外の若手のドクターたちが標準的に学ぶことなのかを知りたいと思いました。

2017年6月19日から23日までの5日間コースに参加し、前後泊と合わせて1週間の日程でした。IRCAD Taiwan があるのは台湾西部の鹿港（ルーガン）という町です。台中から車で1時間程度要します。宿泊している鹿港の市街地より田園を通り抜け、工業地帯に入ると ShowChwan Memorial Hospital が現れます。IRCAD Taiwan はこの病院に隣接して立地しています。今回のコースの参加メンバーの国籍は指導者が台湾、香港、日本、インド、フランス、イタリア、ベルギー、ブラジル、参加者は台湾、フィリピン、インド、マレーシア、シンガポール、日本、タイ、オーストラリアと多岐に渡っていました。また、台湾からは医師だけでなく、獣医師の参加もありました。

本コースは講義と hands on training から構成されます。午前中の講義では基本事項の確認をパワーポイント、手術ビデオまたはライブ手術にて行います。講義は各分野の専門家により行われます。分野によってはブラジルやフランスより、ライブで講義していただきました。Hands on

training では2人1組になり、それぞれに豚1頭が割り当てられます。20頭の豚が麻酔を導入された上で広い手術室に並んでおり、病院勤務のナースが介助につき、14時から18時30分まで training を行います。私のパートナーはマレーシアから来た先生で日本の国立がんセンターへの留学経験もある経験豊富な先生でした。私の拙さをたくさんサポートしていただきました。General Surgery Course の内容は以下の通りでした。1日目：小腸切除、吻合（全て体腔内、手縫い）、胃空腸吻合、胆のう摘出、2日目：ヘルニア修復（TAPP）、胃空腸吻合、噴門形成術、肝門部処理、T-tube 挿入 3日目：肝門部処理、胆管空腸吻合、Roux-en-Y 吻合、肝部分切除術、4日目：胃内手術、胃空腸吻合手術、胃全摘術、肝部分切除術でした。上記のように課題は定められているものの、課題終了後は腸管吻合など各自の課題を自由に行うことができました。3日目の夜には鹿港のホテル近くの海鮮酒場にて交流会が開かれました。国ごとに歌や即興での踊りを披露し、大いに盛り上がりました。交流会の翌日からは参加者同士のコミュニケーションも円滑になり、興味深い経験でした。また、参加者は国籍はもちろんのこと年齢、習熟度も様々でした。しかし、それぞれの国の実情に応じて、より良い技術を身につけて帰りたいとのモチベーションは皆変わらず、そんな若き外科医たちがお互いに持てる知識、経験を伝え合いながら、ともに研修に励む様子は感動的でした。普段の自分が、高い技術を備えた、素晴らしい指導者たちに恵まれていることも再認識し、引き続き頑張ろう！との思いを強められた1週間でした。費用は30万円強と高額ですが、これほどに集中した hands on training が行える機会はないこと、国際交流ができることを考えると若手の先生に特に有用なコースであると考えられました。

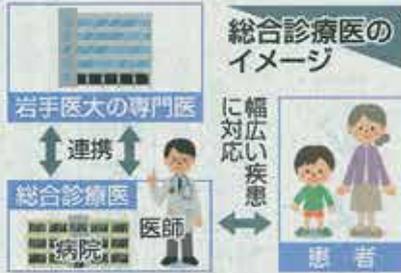
最後にこうした貴重なコースに参加する機会を与えていただきました。佐々木章教授、大変忙しい中無理を聞いてくださった医局の先生方に感謝いたします。本当にありがとうございました。



総合診療医 育成に本腰

岩手医大が「分野」新設

岩手医大（小川彰理事長）は多様な疾患へ対応できる総合診療医の育成に本格的に乗り出す。「総合診療医学分野」を今月新設し、県立千厩病院の下沖収・前院長（53）を教授に迎えた。医師不足の中で高齢化が進む県内では、特定診療科の専門医とは別に、幅広い疾患を診る総合診療医のニーズが高まっており、「地域医療の専門医」の育成システムを体系的に整える。



地域医療の担い手に 教授に下沖氏(県立千厩病院前院長)



下沖収教授

総合診療医学分野は同大の「救急・災害・総合医学講座」の下に設置。地域医療の現場に長年携わり、日本プライマリ・ケア連合学会認定の指導医でもある下沖教授を中心に、総合診療医育成の仕組みづくりや指導医の確保を進める。

下沖教授によると、総合診療医を志す研修医や専攻医の受け入れを2018年度から順次本格化させる構想。同大付属病院や県内の地域病院での実習を通して各診療科について必要なノウハウを身に付けてもらう方向だ。

高齢化が進む地域では、特定診療科の専門的な医療よりも多様な疾患に的確に対応できる医師のニーズが高い。医療の高度化に伴い

診療科の専門性を追求する国内医療の傾向に対し、総合診療医は幅広い疾患を診られる高度なノウハウが必要。だが、岩手医大には志ある人材の確かな受け皿がなかった。

今後育成する総合診療医は地域の医療現場でかかりつけ医のように対応し、専門的な治療が必要と判断される場合には速やかに岩手医大などの専門医につなぐ役割が期待されている。

国の14年調査によると、本県の人口10万人当たり医師数は204.2人で、全国平均244.9人を大きく下回る。さらに県内でも県北や沿岸部と、県央、県南部の間で地域偏在も課題となっている。

下沖教授は「医師不足の中で地域医療の担い手として総合診療医はどうしても必要だ。疾患を問わず対応できる柔軟性と患者に寄り添う心を持つ医師を育てた

い」と抱負を述べる。

総合診療医を巡っては、18年度から予定される新専門医制度で全国的な養成が始まる見通し。岩手医大は先手を打つ形で環境整備に取り組み。同大の佐藤洋一医学部長は「地域医療に関心ある医師を養成するプラットフォーム（基盤）をきちんとつくり、医療の質向上に貢献したい」と語る。

岩手日報 2017年4月4日掲載

February

2

西塚 哲 特任教授就任祝賀会 (2017.2.19. 盛岡グランドホテル)



March

3

合同送別会 (2017.3.14. モンテボッカ)



April

4

木村聡元特任講師昇任祝賀会 (2017.4.5. 駒龍)



第28回内視鏡外科フォーラム東北in山形 (2017.4.15.)

医学部6年 及川 亮君 研修医・学生セッション 優秀演題受賞



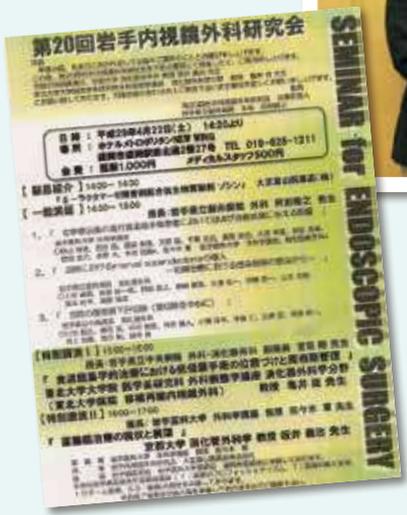
April

4

医局お花見 (2017.4.21. 盛岡城跡公園)



第20回岩手内視鏡外科研究 (2017.4.22.)



June

6

同門会総会 (2017.6.3. 盛岡グランドホテル)



日本肥満症治療学会 招宴 (2017.6.22. 盛岡グランドホテル)



第35回日本肥満症治療学会学術集会 (2017.6.23. ~ 24.)

June

6

学会場風景



ポスター発表風景



招請講師とともに



優秀演題



JSSO Congress



全員懇親会(北野教授)



Prof. Rosenthal 夫妻



全員懇親会(自家製酵母パン)



全員懇親会(自然食)



全員懇親会(自然食)



全員懇親会(教室員)

最優秀演題表彰



市民公開講座



第1回JSTO杯

July

7

下沖先生特任教授就任祝賀会 (2017.7.9. 盛岡グランドホテル)



岩手日報 キッズキャンサーセミナー (2017.8.6)

岩手日報

August

8



がん医療の現場、児童ら学ぶ 矢巾・岩手医大

◎ 地域情報 ◎ 記者 山本 浩一

岩手医大付属病院（杉山敬典院長）主催のキッズキャンサーセミナーは5日、矢巾町西徳田の高大矢巾キャンパスで開かれ、子どもたちが検視手術や検体などを体験し、がんについて理解を深めた。

市内の児童ら36人が参加。緩和医療科の木村信雄教授ががん患者の現状や症状、予防法などについて説明。6班に分かれ、検視手術や検体、全身麻酔、内視鏡などを専門医の指導の下で体験した。

検視手術は、外科医がトレーニングに使う機器を使用。子どもたちはCCTVの画面が映し出された画面を見ながら、電子メスなどを操作し縫うのを体験した。

辻崎小5年の男子児童は「いろんな形の動きが必要で難しかった。将来は医師になりたい」と夢を語る。仙北小5年の女子児童は「内視鏡をやってみてチームワークも必要だと思った」と医療の現場に関心を持っていた。

September

9

第11回北東北LAC情報交換会 (2017.9.16.)



October 10

第12回次世代の内視鏡下消化管手術セミナー in 盛岡 (2017.10.28.)



December 12

同門会忘年会 (2017.12.2. 盛岡グランドホテル)



医局忘年会 (2017.12.28. 盛岡グランドホテル)



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

皆様、ご無沙汰しておりました。当院の一年間を振り返り、近況をご報告いたします。

平成29年の一番の話題は、3月末に院長である坂本 隆先生が定年退職された事でしょうか。長きに渡り二戸病院と二戸病院外科を支えた先生の退職は、外科にとってはもちろん二戸病院自体にも損失ですが、残された者たちで頑張っていこうと思いました。坂本先生は、現在は県立一戸病院に勤務されています。

さて、当科の診療体制は後に残された、佐藤直夫（副院長）、阿部 薫（副院長心得）、川崎雄一郎（外科長）の高齢者+準高齢者3名に加え、4月から中屋 勉（消化器外科長・高齢）、松井雄介（それなりの若手）の2人に新たに赴任して頂き、計5名の常勤体制となりました。

実質上の増員となったため、診療応援は多少少なくなりましたが毎週の乳腺外来に川岸涼子先生が、金曜午前には新田浩幸先生に外来診療応援をお願いしています。県立軽米病院副院長の葛西敏史先生にも引き続き、金曜日午後には手術応援をいただいております。

一方、当科からはカシオペア医療圏内に診療応援として、九戸地域診療センター第2・4月曜日の外来（佐藤）、軽米病院へ毎週月（川崎）・水（阿部）・金（佐藤）の外来を行っています。

昨年の全手術件数は310件と前年より増え、全身麻酔件数は20件増加しました。



傾向として腹腔鏡手術の増加、乳がん手術の増加、胃がん手術の減少となっていました。特に松井先生が赴任してからは乳がん手術が絶えることなく、彼は‘持っているな！’（古い？）と感じています。

現在は全身麻酔に関して多少の制約がありますが、手術件数も減ることなく日々仕事に励んでおります。

地方であれば同じような傾向と思いますが、人口減少などを主体とした患者数の減少により収益悪化や病床利用率低下の問題が出てきています。

上記に関連して、病院としては地域包括ケア病棟導入に向け動き始めたところです。来年度早々には稼働にもっていけるように、プロジェクトチームを核に準備を進めています。今後は病棟再編などの必要もあり、本来の診療業務以外にも忙しくなることが予想されます。

今後とも引き続き当院への医局の先生方からの、ご指導・ご支援のほど宜しく願いいたします。

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

新年あけましておめでとうございます。皆様も新たな気持ちで取り組んでおられることと思います。また、いつも当院の応援をして頂き、誠に有り難うございます。

医局の皆様にはいつも感謝しておりますが、特にこの年末・年始は内科のキャンセルをカバーして頂き大変有り難うございました。週末応援ももちろんありがとうございます。（木村先生、千葉先生、高清水先生、二階先生、天野先生、畑中先生、川島先生、棚橋先生、川岸先生ら）。また、外来応援では二戸病院からも応援をいただいております、有り

難うございます（阿部先生、佐藤先生、川崎先生ら）。

病院要件としては、医師数は3人以上いることが必要です。現在常勤医師3名（内、小、外各1）とギリギリの人数で、内科負担が大きいので中央病院からもレジデントの応援をいただいております。これもまた非常に



岩手日報に掲載された偏在対策。2021年度か一、3年もあるな一。

助かっております（来年度は??です）。また、医療施設別・病床区分別の医師配置基準は「一般16:1」「療養 48:1」であり、当院は一般（地域包括ケア病床含む）54床、療養45床であり一般では3,375、療養1の合計4,375人の医師がいなければなりません。本来は医師数が不足しているのですが、例えば毎週月曜日に1日（9時～5時）応援してくれる先生がいれば週5日のうち5分の1いるということで0.2を加えることができますし、半日の応援であれば0.1を加えることができます。この制度のおかげで何とか必要人員数をクリアしてきました。しかしあちこちの病院で医師不足の悲鳴が上がっており、奨学金を受けられた先生がいらっしゃるのを喉から手が出る思いで待っています。

さらに、地域を見てみますと、私が赴任した当初軽米町の人口は約15,000人であったものが9,000人ほどに減少しています。そんな中で医師だけ増やして欲しいと思ってもうまく行かないでしょう。今後病院の統廃合や診療所化は急速に進むような気がします。しかし、開業するにしても都市部では医師余りが言われておりますので、医局を離れた後のセカン



恒例になってきた「冬祭り」イルミネーション。去年より大掛かりになりました。

ドキャリアとしての病院は維持する必要もあるでしょう。やっぱり残るべき病院が残って行くのでしょうか。

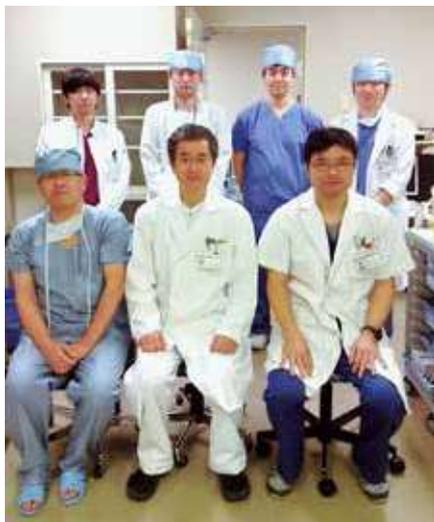
平成30年度は当院でも電子カルテの導入が行われます。基幹病院などで慣れた先生方に今まで紙カルテで対処させており心苦しく思っておりましたが、ようやくという感じですか。31年度には大学の移転もあるようですので、皆さんも大変になることが予想されますが、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。

（文責：葛西敏史）

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院

平成29年度の外科スタッフは吉田徹院長、遠野千尋副院長、高橋正統外科長、八重樫瑞典外科医長、石岡秀基外科医長、心臓血管外科/救急医学講座/皆川幸洋副救急センター長の6名でした。その他、2年次研修医、1年次研修医もローテーションをしてくれています。また、外科学講



座医局からは小児外科を水野大准教授、小林めぐみ先生に隔月第2水曜日の診療と、小児外科手術を応援して頂いています。また、佐々木章教授、肥田圭介准教授、大塚幸喜特任准教授、

新田浩幸特任准教授、高原武志講師にも手術応援を頂き、最先端の手術術式を学ぶことができています。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

2017年の手術件数は464件（2016：454件、以下カッコ内は前年件数）で、全身麻酔手術件数は333件（374）、鏡視下手術は157件（130）でした。癌の手術においては多い順に大腸癌が61件（58）、胃癌が25件（28）、乳癌が21件（15）でした。緊急手術は86件（82）で、例年通りでした。久慈病院全体の手術件数は1604件でそのうち全身麻酔手術は572件でした。外科の手術件数は全科手術総数の30%（40%）であり、今年度から循環器科のペースメーカー手術が増加したため、全体に占める割合は減少しましたが、全身麻酔手術においては60%（58%）が外科の手術です。

沿岸の基幹県立病院においては受診患者、入院患者が10%弱の減少があり、当院もその傾向ですが、手術数はほぼ横ばいで推移しています。これは、人口減少の中、高齢者の人口は変化がないことからと考えられます。久慈市のホームページによれば、久慈市の65才以上の人口は2045年まで減少することなく、1万人を維持する見込みです。今後も医局のご指導、サポートを頂きながら、医師のみならず、医療スタッフとも一丸で気を緩めることなく、地域外科医療に取り組みたいと考えます。

（文責：遠野千尋）

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院

平成29年の盛岡赤十字病院外科、小児外科、緩和ケア科の動向です。スタッフは前年と同じく 外科6名（杉村、川村、青木 武田⇒伊藤、小林⇒有末、石橋）、小児外科2名（畠山、小林⇒有末）、緩和ケア（畠山、旭）で、更に12月から東北労災病院より佐藤馨が来てくれて、皆でシェアしながら診療しております。全麻手術件数は717件で前年より40件ほど増えました。また、PEG、PTEGやV-portも引き受けております。幸いに、大きな災害はなく、災害派遣がない代わりにDMATやコーディネーター研修などに行っ



てもらっております。日々の診療に追われることなく、忙しいときほど心に余裕をもって、笑顔を絶やさず皆頑張っております。医療安全研修では、メディエーションとコンフリクトマネジメントの研修に行き、ロールプレイを通して相手の心をいかに和らげるかを病院職員に伝えました。が、難しいですね。

平成30年もこのスタッフ数を維持できればと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

Uchimaru Hospital

内丸病院

内丸病院の近況をご報告いたします。

外来は予約制（午前）の専門外来が中心となっており、①甲状腺外来（火曜～土曜：富澤）、②乳腺外来（火曜～土曜：富澤、金曜：菊地先生、第四水曜：多田先生）、③肛門外来（金曜：菊地先生）、④ヘルニア外来（火曜～土曜：富澤）、⑤一般（特殊）外来（月曜：秋山先生、月一回金曜：佐々木章教授）で行っております。多くの先生のご協力で、



ほぼ毎日で2診体制となってきました。ありがとうございます。

手術に関しては、平成24年の外科の手術室の立ち上げから、ちょうど『1000例を達成』することができました。小さな病院ですので、手術件数は多くはないのですが、甲状腺手術とヘルニア手術で手術件数の約9割を占めるため、専門疾患としては件数を確保することができたと思います。その他では、PEGとPTEGを合わせて年間50例以上の造瘻術も継続しております。

医局からの手術応援では以前からの岩谷先生が最も多く、さらに平成29年度より月一回ではありますが、下沖教授と一緒に手術ができるようになり、充実した環境で仕事ができることに感謝しております。

平成28年度の新規の取得としては、乳がん学会の関連施設の認定、PEG在宅医療学会の専門胃瘻造設者・専門胃瘻管理者・認定胃瘻教育者でした。今後も、当院での対象疾患に必要な知識や技能の向上と、施設認定も含めて病院全体として取り組んでいきたいと思っております。

Morioka Municipal Hospital

盛岡市立病院

当科は、常勤医師1名と岩手医大外科医局よりの派遣医師2名の計3名で診療を行っております。平成29年度は、藤原久貴先生と遠藤史隆先生に勤務頂きました。当院では、平成29年より消化器、栄養センターを立ち上げました。センター長は、須藤が拝命いたしました。当院は、常勤医

25名中消化器内科医7名、消化器外科医3名、糖尿病代謝科4名と消化器系の医師の比重が多く消化器病患者さんを内科外科の垣根を超えて治療する目的です。In Bodyを3台購入しフレイル、サルコペニアへの対応も始めました。平成29年須藤が臨床研修医制度のプログラム責任者取得し、基幹型研修病院の申請を行いました。平成30年2月後半に認可されれば、平成30年にマッチング、平成31年度から研修医の受け入れが開始となります。当院の研修プログラムの特徴は、社会人大学院生も可能で必修以外の選択科

目は外科または、消化器内科になっており、将来外科医、消化器内科医を目指す医師をターゲットとしています。当院での初期研修終了後は、岩手医大外科に入局頂き、最短で学位、専門医を取得できるように配慮しております。毎年当科より1-2名岩手医大外科医局への入局者を確保できればと考えております。昨年、当院の恒例行事となりましたキッズセミナーは、10回目のアニバーサリーとなりました。今年も開催予定ですので、御子息様の参加希望あれば是非御連絡下さい。学術活動では、平成29年に遠藤史隆先生、中村聖華先生が消化器外科専門医をめめでたく取得されました。学会活動は、全国学会発表6件、和文論文2編、英文論文1編でありました。平成30年度の臨床での目標は、1.肥満手術の導入、2.ダビンチ手術の導入であります。当科は、常勤医師3名で、平成29年度の全身麻酔手術件数が516件で腹腔鏡手術率76.2% (393/516件)と多忙ではあ



りますが、今後も当院に勤務頂く医師には、老若問わず活発な学会活動を継続していきたいと思っております。また、当院で手術を数多く経験頂き、若手の先生に消化器外科専門医を取得して頂ければと思っております。当院は、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存であります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いたします。

(文責：須藤隆之)

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院

釜石病院・外科の近況をご報告させていただきます。平成29年は石黒保直先生(第1外科長)、箱崎将規先生(第2外科長)、佐藤一(副院長)の3人体制で4月から診療を行ってきました。外科学講座から手術応援も頂きながら、診療に手術にと励んでおります。

今年度、副院長が私一人だけとなり、緩和ケア、NST、医療安全などと合わせて多忙ですが充実した仕事をさせて頂いております。石黒先生は、外科の仕事の他に、臨床研修と救急を担当、DMATでも当院の中心となっており、私以上に多忙な日々を送っています。このような状況で箱崎先生は着任したばかりでしたが、すぐにごん診療、消化器外科治療の中心となって頂いて腹腔鏡手術や化学療法など大活躍をしております。

定期的な応援は、これまで通り大槌病院の坂下伸夫先生が毎週水曜の午後の手術、孝仁病院から木曜日に小笠原聡先生が甲状腺外来と手術に来て頂いているほか、月一回岩谷岳先生に食道外来に来て頂いております。

若手の先生方には週三回午後の手術応援に来て頂いてお



り、大いに頼って手術予定を組ませてもらっています。また、週末の救急対応に来て頂いている川島到真先生、いつも



ありがとうございます。

腹腔鏡手術の遠隔指導を頂いている佐々木章先生や、事あるごとに相談させて頂き手術応援にも来て頂いている各グループの先生方にも改めて御礼申しあげます。

皆様ご存じのように、釜石では2019年度ラグビーワールドカップが開催されます。予選リーグ2試合だけですが、震災からの復興を世界に示す大事な機会と捉えて、市民あげて準備をしているところです。現在は仙人峠を越えたところまでの自動車道を2018年度中には鶴住居のスタジアムや、大船渡、仙台方面に延長すべく工事が進んでいます。写真は当院の南側で進められている工事の様子です。毎日病棟の窓から山が削られ、道路が延びていく様子を楽しみながら仕事をしております。釜石鶴住居復興スタジアムもメインスタンドの屋根が形を表してきております。当院もワールドカップ開催時には、地域の中心病院としての役割を期待されると考えられ、その際には医局や同門の先生方にも協力頂くことがあると存じます。これからも釜石病院を何卒よろしくお願申しあげます。

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

いつも大変お世話になっております。平成29年の宮古市の主な出来事という、11月に2年ぶりに盛岡宮古間のJR山田線が再開し、同じ月に宮古山田間の三陸自動車道が開通したことでしょうか。珍しく明るい話題です。平成30年6月には宮古室蘭フェリー航路が開始になりますし、平成31年3月には宮古釜石間の鉄道が再開する予定です。あと2年くらいで新区界トンネルが完成して宮古盛岡自動車道も開通すると思います。診療応援に来てくださる先生方も今よりだいぶ便利に安全になるかと思えます。明るい未来です。

さて、宮古病院外科の出来事はというと鴻巣正史先生が青天の霹靂で函館に転勤が決まり4月に久慈病院から藤井仁志先生が転動してきました。なので、宮古病院外科のスタッフは、前年からひき続きの菅原俊道（52）副院長、石川徹（51）第1外科長、藤社勉（48）救急医療科長と、新入りの藤井仁志（35）外科医長、で4名体制でした。4名とも岩手県の盛岡以外の出身（菅原：一関、石川：九戸、藤社：大槌、藤井：住田）です。だからどうだという話ではありませんが（汗）。

そんな中で平成29年の手術件数は341件（全身麻酔285件）、緊急手術は98件でした。他科の麻酔や緊急手術の自家麻酔も125件と前年より増加しています。スタッフの高齢化に伴い、臨床業務以外のさまざまな病院の業務を担うことも多くなり、藤井先生にはやや負担をかけてしまいました。ありがとうございます。

診療応援は昨年を引き続き、火曜日午前中は野田芳範先生に外来を、火曜午後は北上済生会病院から細井信之先生に来ていただき手術応援、技術指導と大活躍してもらって

います。火曜夜から水曜日は大学から天野総、天野怜、棚橋洋太先生、また更に川岸涼子先生には月1回の乳腺外来、水野大先生には月1回



の小児外科外来をお願いしております。その他にも不定期ですが同門の先生方には様々な場面で非常にお世話になっております。いつも本当にありがとうございます。今後ともよろしく願い申し上げます。

最近の（前からですが）北朝鮮の報道を見ていると非常に憂鬱になります。ひどく高飛車で理不尽な瀬戸際外交にはうんざりです。アメリカの大統領も相変わらずアメリカ第一主義を声高らかに叫び、世界を敵に回して混迷を深めています。

出だしの文章に反しますが、明るい未来が見えない今日この頃せめて宮古病院外科では助け合いの精神を忘れずに、博愛主義？をモットーに粛々と日々の診療を続けていかねばと改めて思います。緩和医療や外来化学療法、感染対策など日常診療は複雑化の一途をたどっており、今後更に専門分化が進むものと予想されますし、いよいよ平成30年度は新専門医制度が開始されます。つきましては、今後とも医局の先生方、各関連病院の先生方からのご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

追伸。私事ですが一身上の都合により平成29年度いっばいで宮古病院、外科医を辞めることとなります。いままで本当にいろいろお世話になりありがとうございました。

（文責：菅原俊道）

Iwate Prefectural Ofunato Hospital

岩手県立大船渡病院

平成29年度の外科スタッフは昨年と同様に中野副院長をトップに外科長星田、鈴木、三田村、山田（以上東北2外科）、増子（後期研修）、緩和医療科長村上（同門）、そして救急総合診療科長前川（山形心外）と私を含めて9人体制です（写真）。この他に救急診療専門医取得のために横沢



(東北2外科)が東北大救急医学へ内地留学しています。なお、集中治療専門医の前川は救命救急センター病棟責任者を担い、手術は実質的に私と村上を除いた7人でを行っています。

教室からは昨年と同様に水野先生に月1回の小児外科の手術応援として来ていただいております。

関連病院手術研修には当院は含まれていませんので、報告します。手術件数は震災後に徐々に低下していましたが、下げ止まりとなり、ほぼ前年と同様の結果でした(表)。全身麻酔、緊急手術、悪性腫瘍手術の件数もほとんど前年度と変わりありません。内容的にはまだまだ少ないレベルではありますが、医局からの支援もあり、徐々にではありますが鏡視下手術も増加傾向にあります。

当院は前年度末より大改修工事を開始し、救命救急センター及びエントランスホールの工事はほぼ終了しています。新たに設けた施設は救命救急センター外来の感染症患者用待合室及び診察室、エントランスホール入口の入退院支援機能、地域連携機能、患者相談機能、地域がん相談支援セ

ンター機能の4つを集中させた患者総合支援センターです。平成30年は本館病棟や手術室の工事が始まり、それに伴い患者制限や手術の縮小の可能性もあり、教室及び同門の施設にお世話になることもありますので、よろしく願いいたします。(文責：伊藤)

2017年全手術件数		
	全身麻酔	329
	腰椎・硬膜外麻酔	0
	局所麻酔・その他	82
	合計	411 (緊急71)
内悪性腫瘍手術		
	甲状腺	3
	乳腺	27(全15、温11、他1)
	食道	6(鏡視下1)
	胃	23(全6、幽14(鏡視下6)、噴0、他3)
	膵臓	2(PD2)
	胆嚢	1
	肝臓	2
	結腸	38(鏡視下7)
	直腸	10(鏡視下0)
	その他	0
	合計	112

表. 岩手県立大船渡病院2017年手術件数

Kitakami Saiseikai Hospital
北上済生会病院

巖刀会の先生方におかれましては、益々御健勝の事とお慶び申し上げます。北上済生会病院外科の平成29年度報告をさせていただきます。

当院外科は今年度、細井信之医師(外科科長) 菅野公徳(消化器外科長)の2名体制で運営させていただきました。

大学からは月曜日の手術に岩谷先生、小松先生、火曜日の外来に圭陵会会長でおられる斎藤和好先生、月一回 水曜日午後小児外科 水野准教授、木曜日に小松先生においで頂きご助力いただいております。また、当直に今年度は二階先生、棚橋先生、畑中先生、馬場先生に来ていただきました。更に手術応援としてふるだて肛門科外科クリニック 加藤先生、県立江刺病院 瀬川先生に来ていただきました。お蔭様で大きな術後合併症やトラブルもなく過ごされましたことと併せ、外科医局、関連病院の諸先生方からのご支援、ご協力に感謝申し上げます。本当に有難うございました。

今年度、当院では158件の手術を行い、内92件を全身麻酔、さらにそのうち55件を腹腔鏡にて施行しております。

例年より若干少なかったものの、年末から消化管手術件数も増えてきており、来年度は病院の



診療体制の変更に伴い消化管疾患患者の増患も見込める状況となっております。

お聞き及びかと存じますが北上済生会病院は、平成32年の新病院開院にむけて現在動いております。外観デザインに始まり各病棟、外来のレイアウト、必要医療機器の選定などを現在、急ピッチで進めております。外来や手術室もこれまでより充実したものとなる他、感染防護に配慮した化学療法室の新設、周産期や回復期リハビリ病床の充実などが計画されております。

当科としましても新病院開院にむけ、更に手術件数の増加、手術内容の充実を図るべく本年も頑張っていきたいと思っております。つきましては本年も医局の先生方、関連病院の先生方からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(文責：菅野公徳)

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

千厩病院外科のご紹介をさせていただきます。

まずは人事で大きな変化がありました。これまで千厩病院の院長として指揮を執っておられました下沖収先生が岩手医科大学へご移動になり、救急・災害・総合医学講座の総合診療医学分野教授に就任されました。同門の先輩であり、また千厩病院の上司でもあった下沖先生がこのような要職に就かれたことは、後輩である我々にとっても大変名誉なことであると喜んでおります。心よりお祝いを申し上げます。下沖先生が残された多くの功績を大切に、外科診療はもちろんのこと、いつも下沖先生が提唱されておりました「総合診療マインド」もしっかりと引き継いでいきたいと思います。

平成29年度の外科診療は3人体制を維持することができました。昨年度から留任の小原眞（H4年卒）と佐々木教之先生（H24年卒）に加え、本年度から大崎洗先生（H26年卒）が加入しています。大崎先生は心臓血管外科の医局に所属していますが、岩手医大“地域枠”を卒業していることもあり、外科研修も兼ねた地域での診療のため当院へ派遣となりました。

大学からも定期的な応援をいただき、川島到真先生に週1回の外来診療を行っていただいております。そのほか、県立病院の現役・OB院長先生方をはじめ、多くの先生方



にお手伝いをいただいております。この場をお借りして感謝の言葉を述べさせていただきます。本当にありがとうございます。

千厩病院は148床のベッド数で、地域の一般診療、二次救急、外来透析など旧東磐井地域の中核的医療施設としての役割を担っています。



医師不足の問題は深刻で、常勤医7名（外科3名、消化器科1名、総合診療内科2名、整形外科1名）と危機的な状態が続いています。その中で外科医師の役割は、通常の外科診療や手術のほかに、整形外科や泌尿器科などの患者対応も行っています。さらに平成28年度からは泌尿器科の常勤医師もなくなったため、透析医療も外科が担当することになり、外科医の診療は多岐に渡っています。常に広い視野を持って診療にあたる必要があり、その目的を果たすため、当時の院長であった下沖収先生の発案により「総合診療外科」と標榜することになり（平成28年4月から）、総合的な観点で外科診療を行うことになりました。これまでの外科疾患ばかりでなく、肺炎や心不全などの診療や老人医療なども手掛けています。これにより、外科の入院患者数・収益とも増加しており、病院経営にも貢献しています。

全身麻酔手術件数は147件で、前年度とほぼ同数で推移しています。当院の特色として高齢者の比率が高く、周術期の全身管理などで苦慮することも多々ありますが、地域住民の健康を守るため、日々頑張っております。

外科診療の充実を図りつつ、質の高い医療を提供していくためには、医局の先生方のご協力が是非とも必要です。今後ご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。（文責：小原 眞）

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

巖刀会の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

当院の近況をご報告させていただきます。菅野先生の移動に伴い、昨年4月から川村秀司院長と瀬川の2人で外科業務を行っております。昨年も当直業務、手術応援・ご指導に多くの先生方のご協力を賜り、この場を借りて厚く御礼申

上げます。

平成29年度の手術件数は、消化器内科医師の減少もあり前年度より減少したものの、その分一件一件を大切に診療に当たらせて頂きました。私事ではございますが、大学院卒業後の初めての赴任先であり、胃全摘・S状結腸切除をはじめ、執刀させて頂いた手術が何から何まで初めて尽くしであり、また自家麻酔のため術中の全身管理などすべてが非常に貴重な経験となっており、これもご協力いただいた先生方のご指導の賜物と、重ねて感謝申し上げます。佐々木章教授に胆嚢摘出術、大塚先生にS状結腸

切除、済生会の細井先生に鼠経ヘルニアと多くの腹腔鏡下手術を、当院までご足労頂き丁寧なご指導の下、執刀の機会を与えて頂きました。また、菅野先生の代から参加している、アニマルラボにも続けて参加させて頂き、手術件数が多いとは言えない状況の中で、腹腔鏡手術のトレーニングを行える大変有意義な経験となりました。当院では、以前から訪問診療や嚙下りハビリテーションなど、積極的な地域医療への取り組みを行っております。訪問診療では、自宅での看取りにも対応しており、来る高齢化社会におけ

る幅広い患者さんのニーズに対応すべく努力しております。今年度も大学や関連病院の先生方のご協力・ご指導を仰ぎながら、地域に根差した医療を提供できるよう善処してまいります。



(文責：瀬川武紀)

Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

表1

手術件数の推移		
	2016年	2017年
全手術件数	1507	1628
全身麻酔手術数	1304	1292
急患手術数	165	201
腹腔鏡手術	736	733
甲状腺癌	11	12
乳癌	155	149
食道癌	24	32
胃癌	116	106
肝胆膵	81	66
大腸癌	269	276

平成29年の外科スタッフは、菅野将史、松尾鉄平が帰局となり、新たに鴻巣正史主任医長、天野総が着任し、高金明典副

院長以下、小林慎診療部長、船渡治外科長、米澤仁志主任医長、大淵徹、武田大樹、安藤太郎の9名で診療にあたっております。H29年の総手術件数は1628件であり、H28年は1507件でしたので121件の手術件数増加となります(表1)。しかしながら全国的な人口減少の流れは函館市も例外ではなく、H29年12月現在函館市の人口数は26万人余りではありますが、毎年3,000人ペースでの人口減少が進行している現状を考えると、今後の手術件数の減少の可能性は否定出来ず、減少幅は最小限にしなければなりません。そのためには、今後も道南医療圏の住民の皆様に五稜郭病院外科を選んで頂けるように、スタッフ一同さらなる手術手技の向上に努め、各種専門医資格取得や学術面でも積極的に研鑽を積んでいく必要があるものと考えております。

各種学会専門医資格取得面では、日本緩和医療学会認定医取得(鴻巣)、日本外科専門医取得(安藤)、日本外科専門医試験予備試験合格(天野)となっております。また、学術面では高金副院長の論文“Randomized clinical trial of 24 versus 72 h antimicrobial prophylaxis in patients undergoing open total gastrectomy for gastric cancer”が、Br J Surg. 2017 ;104 (2) :e158-e164に掲載されました。胃全摘術後の抗生剤投与期間によるSSI発生の比較試験の

結果、予防的抗生剤投与は術後24時間と結論づけられました。今後も医師主導型多施設共同臨床試験に積極的に参加し、新たなEvidenceの積み重ねの一助を担っていきたくと考えております。しかしながら、全国学会発表総件数は、残念ながら13件にとどまりました。1人あたり平均1.4件の計算です。手術手技の習得のみに満足せず、個々が自らを律し、若い先生の模範となるよう、臨床データを整理(=学会発表)し、形(=論文)にしていかなければならないものと考えております。



写真1

さて、2018年1月には、佐々木章教授に手術指導に来函頂きました。その際、研修医藤澤先生に続き、伊藤先生も入局宣言をして頂きました(写真1)。当院の特色はなんといっても豊富な症例を経験できることにあります。母校の医学生のみならず、全国より見学の学生さんが年々増加して参りましたので、当院での研修や見学をしていただく中で外科の魅力を伝え、一緒に働いていける仲間を増やして行きたいと考えております。今後とも「五病外科」を宜しく願いいたします。

(文責：大淵 徹)

追伸：ニセコスキーツアーを開催致しました(写真2)。全面パウダースノーのニセコスキー場での“研修”も今年も続けていく予定ですので、多くの症例を経験したい若い



写真2

先生(ニセコでスキーをしたい先生も!?)、どしどし函館へお越し下さい。

Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

2017年度の診療は、大山健一、加藤久仁之の2人の固定スタッフに加え4月から西成悠が加わり3人体制で行っております。また、稲葉亨先生に定期的に乳腺外来の診療と乳腺症例の執刀にご助力いただいております。さらに大学から肝胆膵症例の執刀に新田先生、長谷川先生にお越しいただいており、昨年度は21例の肝胆膵悪性症例、うち8例の腹腔鏡下肝切除術を当院でご執刀いただきました。

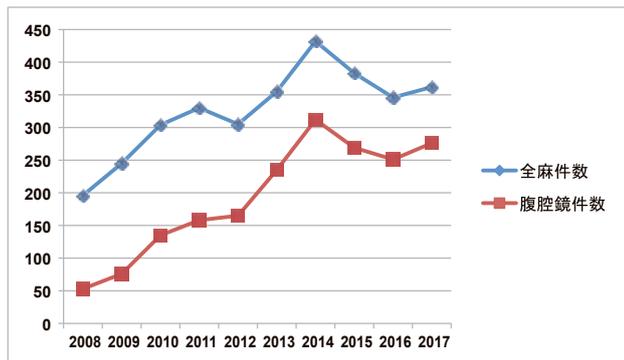
2017年度の手術件数は全身麻酔手術が362件、腹腔鏡下手術が276件で腹部全身麻酔における腹腔鏡下手術率は88.5%でした。胃癌は69.7% (23/32)、大腸癌は100% (73/74、経肛門1例)で大腸癌は高度進行癌に対しても全例腹腔鏡下で完遂しております。また、緊急手術も全例腹腔鏡でアプローチしており、虫垂炎 (33/33)、ヘルニア嵌頓 (5/5)、絞扼イレウス (4/5)、消化管穿孔 (大腸癌



穿孔2例含む) (12/12)、その他 (5/5) と広範壊死のイレウスが開腹移行となったほかは腹腔鏡で完遂しており、腹部緊急手術における腹腔鏡下率は98.3% (59/60) でした。一方、昨年度の縫合不全症例はゼロで、積極的に腹腔鏡を導入しつつも安全性を保持できており、今後もこのクオリティを維持していきたいと考えております。

また、2017年度は内視鏡外科学会雑誌の原著論文に大山と加藤が投稿し、学術的な面でもアクティブに活動しております。

当院では2009年から開業医との連携や対外的なアピールなどを行い症例数の増加に取り組んできました。別表の通りある程度の成果を上げることはできたと考えておりますが、医療圏の人口減少もあってか2014年をピークに症例数の増加は頭打ちになっております。今後も大きな増加は見込めませんが、症例数を維持しつつ現状に甘んじることなく新しい事へのチャレンジを続けていきたいと考えております。



Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

八戸赤十字病院外科の近況を報告いたします。

今年度は当科には大きな変化がありました。何と云ってもスタッフの減員です。平成29年4月よりスタッフが玉澤、藤澤、御供、野田の4人に減員となりました。そのため、毎週大学医局の先生方、南部町で開業されている川守田究先生、種市病院の荒谷宗充先生より外来診療および手術応援をいただきながら通常業務を行っております。派遣いただいている大学医局および応援いただいている先生方に感謝申し上げます。平成29年の手術件数は471例であり、例年とほぼ変わらない件数を行っているため、一人一人にかかる負担が多くなったのは事実ですが、経験でそれをカ



バーできるよう努力しております。自前で行っている肝胆膵手術や腹腔鏡下大腸切除も適応拡大しながら数・質ともに維持～向上を図っています。

現在常勤の4人が内容の濃いチーム医療を目指してそれぞれの役割を果たすことができるようになってきました。

外来診療・手術・後輩の指導・研修医の指導等の日常業務の他に、病院経営・医療安全・化学療法・緩和チーム・NST・ICT・褥瘡対策等の活動についても外科が院内をリードしながら行っています。

今年当院初期研修医1年目の屋成信吾が外科学講座に入局しましたことも大きなニュースです。初期研修の2年間で、できるだけ多くの経験をしてもらい、自分で外科の仕事誇れるように育ってもらえるような環境作りを考え

ています。今後の先生方のご指導をよろしくお願いいたします。

この近況を書き始めた1月12日、外科病棟でインフルエンザがアウトブレイクしてしまいました。現在当科で研修中の研修医、病棟スタッフ、入院中の数名の方が感染していることが今日判明。やむなく、次週の予定手術は全例延期と入院制限が決定してしまいました。私たちもタミフル予防投与開始しました。皆様もお体にはお気をつけて。

Kazuno Kosei Hospital

かつの厚生病院

「地球上に男は何人いると思ってんの」～「35億」「あと5千万人」とは昨年の忘年会を席巻したブルゾンちえみさんの代表ネタ「キャリア・ウーマン」ですが、私自身はあらためて実際の世界人口が74億人に達している事を知って驚愕しました。大学を卒業する時には55億人だったのに…

世界人口とは裏腹に人口減少率が全国一位の秋田県のかつの厚生病院です。この冬の寒波はやはり気象変動の影響なのでしょう。寒すぎます。

2017年4月より小川、眞壁の2人体制で頑張っております。(2人は実は日本拳法部出身と云う繋がりががあります。) 一見強面の眞壁先生ですが、実は子供好きのgentlemanで外来での評判も上々です。

月曜日には高清水先生、天野(怜)先生、棚橋先生らに、金曜日には実家の医院に帰られた飯島先生に引き続き診療応援いただいております。ありがとうございます。また手術応援には、佐々木章教授、水野准教授、肥田准教授、大塚特任准教授、新田特任准教授、高原講師の諸先生に来院いただいております。心より感謝申し上げます。

2017年の全手術件数は234例で、全身麻酔手術件数は177例でした。腹腔鏡手術は113例で、ヘルニア手術は遅まきながらTAPPを標準としました。

手術には優秀な看護スタッフが加わるため常勤2人での鏡視下手術でも焦りを覚えることはありませんが、数を増す抗がん剤治療含む外来業務、健



診業務がいささか(かなり)負担です。しかしですね、厚生労働省発表の平成27年度の主な死因、都道府県別粗死亡率・順位を見ますと、悪性新生物では男女とも秋田県が1位、青森県が2位です。(脳血管疾患では秋田県が男性1位・女性3位、岩手県が男女とも2位という状況です。)更に鹿角市は平均寿命が秋田県内ワースト1(平成22年)だそうです。以前に鹿角市民は岩手盛岡の医療圏を頼るケースが多い旨を書きましたが、鹿角市民の健康に対する岩手医大の責任は大きいと思います。その思いもあって、昨年から自治体および地元医師会の要望で、院外での市民向けの健康講座を4回ほど受け持ちました。また院内ではかね

てから開催したかった手術室体験「キッズセミナー」を催すことが出来ました。喜ぶ顔を見せる子供達の中から、外科医はもとより地元の医療に携わる仕事を希望する人間が出てくれたら望外の喜びです。

今年も大学医局からの応援をいただきながら頑張りたいと思います。盛岡までは高速道路で93kmですが、最近では盛岡までの往復に1日28便毎日運行の高速バス「みちのく号」が便利です。



外科紹介医療機関

2017年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくり治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
青森県立中央病院	藤野 安 弘	030-8553	青森県	青森市	東道2-1-1
青森市立浪岡病院	高橋 敏 之	038-1311	青森県	青森市	浪岡大字浪岡字平野180
青森労災病院		031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ケ丘1番地
秋田厚生医療センター	遠藤 和 彦	011-0948	秋田県	秋田市	飯島西袋1-1-1
秋田市立秋田総合病院		010-0933	秋田県	秋田市	川元松丘町4-30
秋田赤十字病院	小棚木 均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1
秋田大学医学部附属病院	羽 渕 友 則	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼44-2
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
安代診療所	遠藤 芳 夫	028-7534	岩手県	八幡平市	荒屋新町144番地1
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ整形外科医院	阿 部 克 久	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1156-22
あべ内科消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
新井病院		346-0003	埼玉県	久喜市	久喜中央2-2-28
アルテンハイム青山（老健）		020-0133	岩手県	盛岡市	青山2-12-33
飯島医院	飯 島 信	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼狐洞1-277
イーハトーブ病院	上 野 充 人	025-0244	岩手県	花巻市	湯口字志戸平14番地1
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
石井内科消化器科医院	石 井 基 弘	020-0112	岩手県	盛岡市	東緑が丘23-26
石倉クリニック	石 倉 功 一	022-0002	岩手県	大船渡市	大船渡町字茶屋前55-3
一関病院	佐 藤 隆 次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
いわさき内科・皮ふ科		371-0824	群馬県	前橋市	稲荷新田町222-8
岩手医大花巻温泉病院	一 戸 貞 文	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩 野 敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18
岩手県予防医学協会（含付属診療所）	関 川 小百合	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42
岩手県立胆沢病院	勝 又 宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立一戸病院	小井田 潤 一	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字砂森60-1
岩手県立江刺病院	川 村 秀 司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立大船渡病院	伊 藤 達 朗	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立釜石病院	川 上 幹 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立軽米病院	横 島 孝 雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
岩手県立久慈病院	吉 田 徹	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立千厩病院	宗 像 秀 樹	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立中央病院	望 月 泉	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	遠藤 秀 彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立東和病院	松 浦 和 博	028-0115	岩手県	花巻市	東和町安俵6区75-1
岩手県立遠野病院	郷右近 祐 司	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立二戸病院	佐 藤 昌 之	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	村 上 晶 彦	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶇ヶ崎1-11-26

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
いわてリハビリテーションセンター	大井清文	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
植田内科消化器科医院	植田修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
白井循環器呼吸器内科	白井康雄	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-2-6
内丸病院	富澤勇貴	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
えいづか内科胃腸科クリニック	永塚健	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-1-7
おいかわ内科クリニック	及川寛太	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-18-46
奥州病院	長澤茂	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
鶯宿温泉病院	瀬川泰幸	020-0573	岩手県	岩手郡雫石町	南畑32-265
おおうち消化器内科クリニック	大内健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8
大浦内科・歯科クリニック	大浦雅之	020-0836	岩手県	盛岡市	津志田西2丁目13-3
大館市立扇田病院	大本直樹	018-5701	秋田県	大館市	比内町扇田字本道端7-1
大館市立総合病院		017-0885	秋田県	大館市	豊町3-1
大通胃腸科内科	鈴木恒男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-3-4
おおどおり鎌田内科クリニック	鎌田潤也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通2丁目7-23
大曲厚生医療センター	三浦雅人	014-0027	秋田県	大仙市	大曲通町8-65
大曲中通病院		014-0062	秋田県	大仙市	大曲上栄町6-4
大宮眼科医院		330-0856	埼玉県	さいたま市	大宮区三橋1-776 大宮MDビル1F
小笠原眼科クリニック	小笠原孝祐	020-0114	岩手県	盛岡市	高松3-10-12
おかだ外科内科クリニック	岡田伸之	027-0025	岩手県	宮古市	実田2-5-10
岡三沢診療所	亀田邦彦	033-0032	青森県	三沢市	緑町1丁目2-5
荻窪病院		167-0035	東京都	杉並区	今川3-1-24
沖縄県立中部病院		904-2293	沖縄県	うるま市	字宮里281
荻野病院	荻野義信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1-6-12
おぼら内科・消化器科クリニック	小原啓彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
開運橋消化器内科クリニック	遠藤昌樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3丁目9-3
かさい睡眠呼吸器クリニック	笠井良彦	024-0011	岩手県	北上市	堤ヶ丘1-9-32
カシオペア医院	肥田憲彦	028-6105	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛134-5
かづの厚生病院	吉田雄樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
かなざわ内科クリニック	金澤格	020-0125	岩手県	盛岡市	上堂1-18-24
要町病院		171-0043	東京都	豊島区	要町1-11-13
金子クリニック	金子卓司	028-0021	岩手県	久慈市	門前第2地割26番地
かねこ内科クリニック	金子能人	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-1-63
釜石しょうけいクリニック	正慶修	026-0055	岩手県	釜石市	甲子町10-268-1
釜石ファミリークリニック	関薫	026-0025	岩手県	釜石市	大渡町3丁目15番26号
川上医院	川上格	028-0516	岩手県	遠野市	穀町1-27
川久保病院	田村茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
菅野小児科医院	菅野恒治	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸2-11-36
がん研有明病院		135-8550	東京都	江東区	有明3-10-6

か

か

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
岸和田徳洲会病院		596-8522	大阪府	岸和田市	加守町4-27-1
北上済生会病院	赤坂俊英	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8
きたかみ皮膚科スキンケアクリニック	菊池里奈子	024-0091	岩手県	北上市	大曲町1-2
北里大学病院		228-0829	神奈川県	相模原市	北里1-15-1
草津総合病院		525-8585	滋賀県	草津市	矢橋町1600
久保田医院	久保田公宜	020-0147	岩手県	盛岡市	大館町26-3
栗原クリニック	栗原英夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
黒川産婦人科医院	黒川賀重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
くろだ脳神経・頭痛クリニック	黒田清司	020-0884	岩手県	盛岡市	神明町10-38
くわしま眼科クリニック	桑島研一	021-0053	岩手県	一関市	山目字中野55-1
ケイ・ティ・メディカル		100-0005	東京都	千代田区	丸の内2-2-3
恵寿総合病院		926-8605	石川県	七尾市	富岡町94番地
孝仁病院	西成尚人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
公立七戸病院	佐々木博海	039-2523	青森県	上北郡七戸町	字影津内98-1
肥田胃腸科内科医院	肥田秀彦	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46
国保新里診療所	盛合直樹	028-2104	岩手県	宮古市	茂市1-116-9
国保藤沢病院	佐藤元美	029-3405	岩手県	一関市	藤沢町藤沢字町裏52-2
国保山形村診療所	吉田弘之	028-8602	岩手県	久慈市	山形町川井9-44-8
国立がん研究センター中央病院		104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
国立病院機構大阪医療センター		540-0006	大阪府	大阪市	中央区法円坂2-1-14
こずかた診療所	吉岡尚文	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵衛新田5-67-1
後藤内科医院		016-0181	秋田県	能代市	大瀬瀬下6-52
後藤泌尿器科皮膚科医院	後藤康文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
西城医院	西城寛	021-0221	岩手県	一関市	舞川字中里65
済生会岩泉病院	柴野良博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
さいたま市民医療センター		331-0054	埼玉県	さいたま市	西区鳥根299-1
齋藤外科クリニック	齋藤穂積	988-0066	宮城県	気仙沼市	東新城1丁目12-1
ささきクリニック	佐々木盛光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
ささき医院	佐々木正孝	020-0816	岩手県	盛岡市	中野1丁目27-10
佐藤内科クリニック	佐藤公也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
佐藤雅夫クリニック	佐藤雅夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
さとう消化器科内科クリニック	佐藤慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
さとう内科クリニック(花巻市)	佐藤彰宏	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4-28
澤田内科医院	澤田哲伸	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-6-11
三愛病院	山内文俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
三愛病院附属矢巾クリニック	藤島幹彦	028-3601	岩手県	紫波郡矢巾町	高田11-25-2
静岡県立静岡がんセンター		411-8777	静岡県	駿東郡長泉町	下長窪1007
雫石大森クリニック	大森浩明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2

か

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
しゅういちろう内科クリニック	高橋 秀一郎	024-0004	岩手県	北上市	村崎野17地割167番3	
重城泌尿器科クリニック		346-0114	埼玉県	久喜市	菖蒲町上栢間3168	
重粒子医科学センター病院		263-0024	千葉県	千葉市	稲毛区穴川4-9-1	
小豆嶋胃腸科内科クリニック（盛岡市）	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20	
小豆嶋胃腸科内科クリニック（北上市）	小豆嶋 正 博	024-0094	岩手県	北上市	本通り4丁目13-6	
市立角館総合病院	西野 克 寛	014-0394	秋田県	仙北市	角館町上野18	
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1	
紫波地域診療センター	小野 満	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字三本木32	
紫波中央小児科	武藤 秀 和	028-3318	岩手県	紫波郡紫波町	紫波中央駅前2-3-94 オガールセンター1F	
しんたろうクリニック	菊池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1	
すがさわ外科・内科クリニック	菅澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1	
鈴木こう門科クリニック	鈴木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14	
鈴木内科医院	鈴木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17	
須藤内科クリニック	小林 仁	020-0045	岩手県	盛岡市	盛岡駅西通2-9-1 マリウス11F	
せいてつ記念病院	寺田 尚 弘	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7	
仙台赤十字病院	北 純	982-8501	宮城県	仙台市	太白区八木山本町2-43-3	
総合花巻病院	後藤 勝 也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28	
総合水沢病院	半井 潔	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1	
総合南東北病院（郡山）		963-8052	福島県	郡山市	八山田7-115	
平館クリニック	土谷 正 彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平館第11地割-10-10	
高木丘クリニック	佐藤 寧	025-0016	岩手県	花巻市	高木18-61-2	
高木病院		198-0021	東京都	青梅市	今寺5-18-19	
高の原中央病院		631-0805	奈良県	奈良市	右京1-3-3	
高橋内科胃腸科クリニック	高橋 真	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1186-14	
高松病院	高松 正 之	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町4-8	
高宮消化器科内科医院	高宮 秀 式	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田2-106-3	
滝沢市役所健康推進課		020-0692	岩手県	滝沢市	中鵜飼55	
滝沢中央病院	大川原 真 澄	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼笹森42番地2	
たぐち脳神経外科クリニック	田口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19	
たにむらクリニック	谷村 清 明	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2	
ちだ内科・外科クリニック	千田 明 紀	020-0824	岩手県	盛岡市	東安庭1丁目23-60	
ちとせ医院	菊池 ちとせ	024-0061	岩手県	北上市	大通り2-1-22	
町立西和賀さわうち病院	北村 道 彦	029-5612	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字大野13地割3番地12	
つがる総合病院		037-0053	青森県	五所川原市	字布屋町41	
照井内科消化器科医院	照井 虎 彦	025-0072	岩手県	花巻市	四日町3-5-8	
東京大学医学部附属病院		113-8655	東京都	文京区	本郷7丁目3番1号	
東京ベイ・浦安市川医療センター		279-0001	千葉県	浦安市	当代島3-4-32	
東北大学病院	八重樫 伸 生	980-0872	宮城県	仙台市	青葉区星陵町1番1号	

た

な

は

ま

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
東北中央病院（山形）		990-0064	山形県	山形市	和合町3-2-5
東北労災病院		981-8563	宮城県	仙台市	青葉区台原4-3-21
遠山病院	千葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内第二病院	栃内 秀彦	020-0778	岩手県	滝沢市	大釜吉水103-1
栃内病院	白石 秀夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
十和田市立中央病院	松野 正紀	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
内科クリニックすずき	鈴木 康之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
中の橋斉藤クリニック	斉藤 文子	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-4-20 水晶堂ビル4F
なかの消化器内科クリニック	中野 修	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字下中島81-2
中村歯科医院（盛岡市）		020-0861	岩手県	盛岡市	仙北2丁目10-7
ナグモクリニック東京		102-0075	東京都	千代田区	三番町3-10 乳房再建センタービル
なないろのとびら診療所	松嶋 大	020-0861	岩手県	盛岡市	南仙北2-1-20
成田内科胃腸科医院	成田 知史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
南昌病院（帰厚堂）	木村 宗孝	028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢1-2-181
西松園内科医院	斉藤 恵子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園三丁目22番1号
二戸クリニック	青木 光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
二宮内科クリニック	二宮 一見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
沼宮内地域診療センター	大津 友見	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7
能代厚生医療センター	近田 龍一郎	016-0014	秋田県	能代市	落合字上前田地内
函館五稜郭病院		040-8611	北海道	函館市	五稜郭町38-3
八戸市立市民病院	三浦 一章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1
八戸赤十字病院	瀬尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
原田内科脳神経機能クリニック	原田 達男	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸3-2-1
原町赤十字病院		377-0882	群馬県	吾妻郡東吾妻町	大字原町698
ひかり内科クリニック	金田 泰一	031-0804	青森県	八戸市	青葉3丁目31-5
ひめかみ病院	坂本 文明	028-4134	岩手県	盛岡市	玉山区下田陣場41-10
弘前大学医学部附属病院	福田 眞作	036-8563	青森県	弘前市	本町53
ひろし外科肛門科	吉田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
ふるだて加藤肛門外科クリニック	加藤 典博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
プレスト齊藤外科クリニック	齊藤 純一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
細井外科医院	細井 義行	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原1-1-2
ポランの内科クリニック	板澤 正明	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通1-7-25 朝日生命中央通ビル1F
本田胃腸内科外科	本田 健一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
前田皮膚科クリニック	前田 文彦	024-0092	岩手県	北上市	新穀町2-1-17
松島病院		220-0041	神奈川県	横浜市	西区戸部本町19-11
まつぞのクリニック	近藤 真人	033-0037	青森県	三沢市	松園町3-9-4
松園第二病院	石川 洋子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3

ま

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
真山池田医院	池田 富好	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通3-19-32	
三浦病院	三浦 裕一	354-0004	埼玉県	富士見市	下南畑3166	
美里町立南郷病院	玉手 英一	989-4205	宮城県	遠田郡美里町	木間塚字原田5	
三島内科医院	佐藤 健介	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34	
水沼内科循環器クリニック	水沼 吉美	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2-11-12	
三田記念病院	矢島 英雄	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1	
むつ総合病院	橋爪 正	035-0071	青森県	むつ市	小川町1-2-8	
村木内科胃腸科医院（十和田）		034-0083	青森県	十和田市	西三番町20-17	
むらた眼科クリニック	村田 正敏	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ5丁目8-30	
むらまつクリニック	村松 親	020-0862	岩手県	盛岡市	東仙北1丁目3-7	
メディカルコート八戸西病院	高橋 通宏	039-1103	青森県	八戸市	長苗代字中坪77	
盛岡観山荘病院	小泉 幸子	020-0114	岩手県	盛岡市	高松4-20-40	
もりおかこども病院	米沢 俊一	020-0102	岩手県	盛岡市	上田松屋敷11-14	
盛岡市立病院	加藤 章信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1	
盛岡赤十字病院	松田 壮正	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1	
盛岡つなぎ温泉病院	関 博文	020-0055	岩手県	盛岡市	繫字尾入野64-9	
盛岡鉄道検診センター		020-0034	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通り1-41	
盛岡友愛病院	遠藤 重厚	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10	
もりおか胃腸科内科クリニック	佐藤 邦夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2	
もりおか往診クリニック	木村 幸博	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡三丁目20-3	
もりおか心のクリニック	上田 均	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目1-48	
もりおか静眼堂医院	櫻井 伴子	020-0034	岩手県	盛岡市	駅前通9-5 佐川ビル2階	
守口歯科クリニック		020-0103	岩手県	盛岡市	西松園三丁目23番10号	
森整形外科	森 茂雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2	
八角医院	高橋 克郎	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2	
八角病院	八角 有紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190	
やはば産婦人科	新沼 武成	028-3602	岩手県	紫波郡矢巾町	藤沢第1地割104-1	
やまだ胃腸内科クリニック	山田 宏	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31	
大和市立病院		242-8602	神奈川県	大和市	深見西8-3-6	
ゆかわ脳外科	湯川 英機	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2-2-10	
ゆとりが丘クリニック	高橋 邦尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541	
横浜市立大学附属 市民総合医療センター		232-0024	神奈川県	横浜市	南区浦舟町4-57	
吉田整形外科・リウマチ科クリニック	吉田 昌明	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目9番28号 岩井ビル2階	
わたなべおしりのクリニック	渡邊 正敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3	
わたなべ内科・神経内科クリニック	渡邊 活見	020-0114	岩手県	盛岡市	高松三丁目9-8	

や

わ

獲得研究費

科学研究費助成事業

1. 平成 29～31 年度 基盤研究 (C)
「膵管分離法を用いた SNP array による胆道癌のゲノムコピー数解析」
研究代表者：塩井 義裕
2. 平成 29～31 年度 基盤研究 (C)
「血漿中遊離変異 DNA 定量による食道癌モニタリングシステムの開発」
研究代表者：岩谷 岳
3. 平成 29～31 年度 基盤研究 (C)
「大腸癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討」
研究代表者：秋山 有史
4. 平成 29～31 年度 基盤研究 (C)
「Muse 細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基盤構築」
研究代表者：片桐 弘勝 研究分担者：西塚 哲
5. 平成 29～31 年度 基盤研究 (C)
「大量肝切除後の幹細胞補充療法」
研究代表者：高原 武志 研究分担者：佐々木 章
6. 平成 29～30 年度 若手研究 (B)
「肥満外科手術後の腸内・口腔内細菌叢の変化と肥満関連健康障害の改善機序の解明」
研究代表者：馬場 誠朗
7. 平成 28～30 年度 基盤研究 (C)
「afadin による肝細胞癌進展機構の解明」
研究代表者：及川 浩樹 研究分担者：新田 浩幸
8. 平成 28～30 年度 基盤研究 (C)
「ユビキチン-プロテアソーム系小胞体ストレス応答制御による膵島移植成績の向上」
研究代表者：伊勢 一哉 研究分担者：佐々木 章
9. 平成 28～29 年度 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
「薬剤耐性コロニーをモデルとした癌再発抑制へ繋がる化合物同定に関する研究（国際共同研究強化）」
研究代表者：西塚 哲
10. 平成 28～29 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）
「薬剤耐性癌細胞の多様性に対応する至適分子標的薬選定プロセスの体系化」
研究代表者：西塚 哲
11. 平成 28～29 年度 若手研究 (B)
「RNA ポリメラーゼ阻害による再発癌特異的治療法の開発」
研究代表者：久米 浩平
12. 平成 28～29 年度 若手研究 (B)
「脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発巣組織標本を用いた脳転移予測マーカー探索」
研究代表者：石田 和茂
13. 平成 28～29 年度 若手研究 (B)
「変異遺伝子のモニタリングによる大腸癌術後の微少転移及び再発の新たな評価法の検証」
研究代表者：八重樫 瑞典
14. 平成 28～29 年度 若手研究 (B)
「食道癌テーラーメイド治療に向けた血中遊離 DNA 中の変異遺伝子診断法の開発」
研究代表者：遠藤 史隆
15. 平成 27～29 年度 基盤研究 (C)
「NASH 合併高度肥満症に対する肥満外科手術後のインスリン抵抗性と肝組織学的変化」
研究代表者：佐々木 章
16. 平成 27～29 年度 基盤研究 (C)
「胃癌術後補助化学療法効果予測バイオマーカーの臨床的妥当性の検証」
研究代表者：肥田 圭介 研究分担者：西塚 哲
17. 平成 27～29 年度 基盤研究 (C)
「食道癌肉腫の分子生物学的解析による食道扁平上皮癌・間葉系機構の解明」
研究代表者：鴻巣 正史 研究分担者：岩谷 岳

18. 平成 27～29 年度 基盤研究 (C)

「肥満・糖尿病に基づく動脈硬化形成における小胞体ストレスの役割の解明」

研究代表者：石垣 泰 研究分担者：佐々木 章

厚生労働科学研究費補助金

1. 平成 28～30 年度

「食欲中枢異常による難治性高度肥満度の実態調査」

研究代表者：龍野 一郎（東邦大学医療センター 佐倉病院） 研究分担者：佐々木 章

その他

1. 主陵会学術振興会共同研究助成

「血中遊離変異 DNA 解析を用いた食道癌患者における Precision Medicine の開発」

研究代表者：岩谷 岳

2. 主陵会学術振興会個人研究助成

「Circulating tumor DNA を用いた乳癌術前化学療法の逐次的効果判定法の開発」

研究代表者：川岸 涼子

3. 中外製薬研究活動支援

「大腸癌診療における ctDNA を用いた Liquid biopsy の臨床実践に向けた研究」

研究代表者：佐藤 慧

4. 先進ゲノム支援（文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究『学術研究支援基盤形成』」先進ゲノム解析研究推進プラットフォーム）

「食道癌診療における Circulating tumor DNA モニタリングシステムの開発」

研究代表者：岩谷 岳

5. 先進ゲノム支援（文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究『学術研究支援基盤形成』」先進ゲノム解析研究推進プラットフォーム）

「薬剤耐性による癌再発メカニズム解明に向けた統合的アプローチ」

研究代表者：西塚 哲

6. MSD 研究活動支援

「肥満 2 型糖尿病に対する外科治療の改善機序と自律神経機能変化」

研究代表者：佐々木 章

英文論文

1. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Baba S, Takeda D, Makabe K, Wakabayashi G, Sasaki A. Safely extending the indications of laparoscopic liver resection: When should we start laparoscopic major hepatectomy?. **Surg Endosc**, 2017 ; 31(1) : 309-316.
2. Yaegashi M, Otsuka K, Kimura T, Hakozaki M, Kamishima M, Hatanaka T, Sato K, Fujii H, Matsuo T, Sasaki A. Transumbilical abdominal incision for laparoscopic colorectal surgery does not increase the risk of postoperative surgical site infection. **Int J Colorectal Dis**, 2017 ; 32(5) : 715-722.
3. Konosu M, Iwaya T, Kimura Y, Akiyama Y, Shioi Y, Endo F, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A. Peripheral vein infusions of amino acids facilitate recovery after esophagectomy for esophageal cancer: Retrospective cohort analysis. **Ann Med Surg (2012)**, 2017 ; 14(35) : 29-35.
4. Takahashi M, Takahashi M, Nishinari N, Matsuya H, Tosha T, Minagawa Y, Shimooki O, Abe T. Clinical evaluation of complete solo surgery with the ViKY? "robotic laparoscope manipulator." **Surg Endosc**, 2017 ; 31(2) : 981-986.
5. Takeshi Iwaya, Suburu Amano, Kohei Kume, Chie Ito, Fumitaka Endo, Masafumi Konosu, Yoshihiro Shioi, Yuji Akiyama, Takeshi Takahara, Koki Otsuka, Hiroyuki Nitta, Keisuke Koeda, Masaru Mizuno, Satoshi Nishizuka, Akira Sasaki, Koshi Mimori. Downregulation of ST6GALNAC1 is associated with esophageal squamous cell carcinoma development. **Int J Oncol**, 2017 ; 50(2) : 441-447.
6. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Shioi Y, Chiba T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Kimura Y, Sasaki A. Stability of Cervical Esophagogastronomy via Hand-sewn Anastomosis after Esophagectomy for Esophageal Cancer. **Dis Esophagus**, 2017 ; 30(5) : 1-7.

7. Shigeki Yamaguchi, Jo Tashiro, Ryuichiro Araki, Junji Okuda, Tsunekazu Hanai, Koki Otsuka, Shuji Saito, Masahiko Watanabe, Kenichi Sugihara. Laparoscopic versus open resection for transverse and descending colon cancer: Short-term and long-term outcomes of a multicenter retrospective study of 1830 patients. **Asian J Endosc Surg**, 2017 ; 10(3) : 268-275.
8. Takahara T, Wakabayashi G, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Umemura A, Takeda D, Makabe K, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A. The First Comparative Study of the Perioperative Outcomes Between Pure Laparoscopic Donor Hepatectomy and Laparoscopy-Assisted Donor Hepatectomy in a Single Institution. **Transplantation**, 2017 ; 101(7) : 1628-1636.
9. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Shioi Y, Kumagai M, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Kimura Y, Suzuki K, Sasaki A. Effectiveness of intervention with a perioperative multidisciplinary support team for radical esophagectomy. **Support Care Cancer**, 2017 ; 25(12), 3733-3739.
10. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Chiba T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Kimura Y, Sasaki A. Investigation of operative outcomes of thoracoscopic esophagectomy after triplet chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for advanced esophageal squamous cell carcinoma. **Surg Endosc**. Epub 2017 Jun 29.
11. Naitoh T, Kasama K, Seki Y, Ohta M, Oshiro T, Sasaki A, Miyazaki Y, Yamaguchi T, Hayashi H, Imoto H, Tanaka N, Unno M. Efficacy of sleeve gastrectomy with duodenal-jejunal bypass for the treatment of obese severe diabetes patients in Japan: a retrospective multicenter study. **Obes Surg**, 2017.
12. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Chiba T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Kimura Y, Sasaki A. Laparoscopic repair of parahepatic hernia after esophagectomy: a case report. **Surg Case Rep**, 2017 ; 3(1) : 91.
13. Akio Sugitachi, Koki Otsuka, Fumitaka Endo, Toshimoto Kimura, Takeshi Takahara, Yuji Akiyama, Takeshi Iwaya, Hiroyuki Nitta, Keisuke Koeda, Masaru Mizuno, Akira Sasaki. Intraoperative fluorescence-imaging of nerves - a contribution to navigation surgery. **Imaging Med**, 2017 ; 9(5) : 143-148.
14. Hasegawa Y, Wakabayashi G, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Umemura A, Makabe K, Sasaki A. A novel model for prediction of pure laparoscopic liver resection surgical difficulty. **Surg Endosc**, 2017 ; 31(12).
15. Otsuka K, Kimura T, Hakozaki M, Yaegashi M, Matsuo T, Fujii H, Sato K, Hatanaka T, Sasaki A. Comparative benefits of laparoscopic surgery for colorectal cancer in octogenarians: a case-matched comparison of short- and long-term outcomes with middle-aged patients. **Surg Today**, 2017 ; 47 : 587-594.
16. Yamaguchi S, Tashiro J, Araki R, Okuda J, Hanai T, Otsuka K, Saito S, Watanabe M, Sugihara K. Laparoscopic versus open resection for transverse and descending colon cancer: Short-term and long-term outcomes of a multicenter retrospective study of 1830 patients. **Asian J Endosc Surg**, 2017 ; 10 : 268-275.
17. Ikarashi D, Ishida K, Kashiwaba M, Kato Y, Shiomi E, Takayama M, Komatsu H, Takata R, Ohmori S, Sugai T, Obara W. Sporadic breast metastasis derived from renal cell carcinoma: A case report. **Urol Case Rep**, 2017 ; 16 : 126-128.
18. Sugai T, Takahashi Y, Eizuka M, Sugimoto R, Fujita Y, Habano W, Otsuka K, Sasaki A, Yamamoto E, Matsumoto T, Suzuki H. Molecular profiling and genome-wide analysis based on somatic copy number alterations in advanced colorectal cancers. **Mol Carcinog**, 2018 ; 57(3) : 451-461.
19. Uesugi N, Sugimoto R, Eizuka M, Fujita Y, Osakabe M, Koeda K, Kosaka T, Yanai S, Ishida K, Sasaki A, Matsumoto T, Sugai T. Case of gastric neuroendocrine carcinoma showing an interesting tumorigenic pathway. **World J Clin Cases**, 2017 ; 5(11) : 397-402.
20. Umemura A, Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Sasaki A. Is sarcopenia a prognostic factor after living donor liver transplantation?. **Hepatobiliary Surg Nutr**, 2017 ; 6(4) : 258-259.
21. Uesugi N, Sugai T, Sugimoto R, Eizuka M, Fujita Y, Sato A, Osakabe M, Ishida K, Koeda K, Sasaki A, Matsumoto T. Clinicopathological and molecular stability and methylation analyses of gastric papillary adenocarcinoma. **Pathology**, 2017 ; 49(6) : 596-603.
22. Sugai T, Yamada N, Eizuka M, Sugimoto R, Uesugi N, Osakabe M, Ishida K, Otsuka K, Sasaki A, Matsumoto T. Vascular Invasion and Stromal S100A4 Expression at the Invasive Front of Colorectal Cancer are Novel Determinants and Tumor Prognostic Markers. **J Cancer**, 2017 ; 8(9) : 1552-1561.
23. Ito C, Nishizuka SS, Ishida K, Uesugi N, Sugai T, Tamura G, Koeda K, Sasaki A. Analysis of PIK3CA mutations and PI3K pathway proteins in advanced gastric cancer. **J Surg Res**, 2017 ; 212 : 195-204.
24. Sugai T, Yoshida M, Eizuka M, Uesugi N, Habano W, Otsuka K, Sasaki A, Yamamoto E, Matsumoto T, Suzuki H. Analysis of the DNA methylation level of cancer-related genes in colorectal cancer and the surrounding normal mucosa. **Clin Epigenetics**, 2017 ; 9 : 55.
25. Umemura A, Sasaki A, Nitta H, Baba S, Ando T, Kajiwara T, Ishigaki Y. Pancreas volume reduction and metabolic effects in Japanese patients with severe obesity following laparoscopic sleeve gastrectomy. **Endocr J**, 2017 ; 64(5) : 487-498.
26. Haruta H, Kasama K, Ohta M, Sasaki A, Yamamoto H, Miyazaki Y, Oshiro T, Naitoh T, Hosoya Y, Togawa T, Seki Y, Lefor AK, Tani T. Long-Term Outcomes of Bariatric and Metabolic Surgery in Japan: Results of a Multi-Institutional Survey. **Obes Surg**, 2017 ; 27(3) : 754-762.

和文論文

1. 水野 大, 有末 篤弘, 小林 めぐみ. 胃食道逆流症. **小児外科**. 2017; 49(1): 30-31.
2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 上嶋 徳, 三宅 孝典, 佐々木 章. 結腸左半切除. **消化器外科**. 2017; 40(3): 313-323.
3. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 肝右葉切除 動脈個別処理とグリソン鞘一括処理, 右葉脱転先行と前方アプローチ. **臨床外科**. 2017; 72(3): 318-322.
4. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 三宅 孝典, 佐々木 章. 拡大視効果を用いた中結腸動脈周囲リンパ節郭清. **手術特集**. 2017; 71(4): 497-503.
5. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 栗原 英夫. 内視鏡下甲状腺良性腫瘍切除術における保険収載後の課題と展望. **日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌**. 2017; 33(4): 219-222.
6. 水野 大, 有末 篤弘, 小林 めぐみ, 佐々木 章. インフォームド・コンセントのあり方 嵌頓ヘルニア (外単径ヘルニア・臍ヘルニア). **小児外科**. 2017; 49(4): 389-391.
7. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 十二指腸通過障害を来した特発性腸間膜血腫に対して保存的に加療した1例. **岩手医学雑誌**. 2017; 69(1): 43-47.
8. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腫瘍摘出術を施行した膀胱リンパ上皮嚢胞の2例. **岩手医学雑誌**. 2017; 69(1): 37-42.
9. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 徳, 三宅 孝典, 高清水 清治, 畑中 智貴, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 藤井 仁志, 吉楽 拓哉, 里吉 梨香, 佐々木 章. 腹腔鏡下直腸癌手術 超音波凝固切開装置の活用法. **臨床外科特集**. 2017; 72(5): 569-577.
10. 遠藤 史隆, 須藤 隆之, 小鹿 雅博, 石田 馨, 新田 浩幸, 佐々木 章. 小腸に穿破した膀胱十二指腸切除術後の胆嚢動脈仮性動脈瘤の1例. **日本臨床外科学会雑誌**. 2017; 78(6): 1395-1399.
11. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 秋山 有史, 鈴木 祥子, 熊谷 美佐子. 特集 再確認しよう! 内視鏡外科の基本手技 体位からデバイスの使用まで 体位の取り方. **消化器外科**. 2017; 40(8): 1141-1148.
12. 有末 篤弘, 藤澤 健太郎, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 脳出血後に腸管嚢腫様気腫症を発症した1例. **岩手医学雑誌**. 2017; 69(3): 155-159.
13. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐藤 慧, 高清水 清治, 畑中 智貴, 佐々木 章. 大腸癌における漢方薬の応用. **臨床外科**. 2017; 72(8): 952-957.
14. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 畑中 智貴, 近藤 優, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 藤井 仁志, 佐々木 章. 手術ステップ毎に理解する標準術式アトラス 結腸癌—横行結腸切除術. **臨床外科増刊号**. 2017; 72(11): 91-95.
15. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 佐々木 章. 手術ステップごとに理解する標準術式アトラス—胃癌 幽門保存胃切除術. **臨床外科増刊号**. 2017; 72(11): 49-53.
16. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 畑中 智貴, 近藤 優, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 佐々木 章. 下部消化管手術に用いる自動縫合器・吻合器の使用法 腹腔鏡手術を中心に. **外科増刊号**. 2017; 79(12): 1202-1209.
17. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 高清水 清治, 畑中 智樹, 吉田 徹, 遠野 千尋, 皆川 幸洋, 高橋 正統, 石岡 秀基, 杉本 亮, 菅井 有, 佐々木 章. 進行痔瘻癌に対して集学的療法後に根治手術施行した長期生存の1例. **癌と化学療法**. 2017; 44(12): 1754-1756.
18. 遠藤 史隆, 杉立 彰夫, 肥田 圭介, 岩谷 岳, 秋山 有史, 梅邑 晃, 木村 聡元, 高原 武志, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 発色による末梢神経組織可視化の試み. **癌と化学療法**. 2017; 44(12): 1467-1469.
19. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 畑中 智貴, 近藤 優, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 高清水 清治, 箱崎 将規, 佐々木 章. イレウス. **成人病と生活習慣病**. 2017; 47(12): 1505-1509.
20. 西成 悠, 加藤 久仁之, 石橋 正久, 大山 健一, 佐々木 章. 妊娠 12 週の急性虫垂炎に対し腹腔鏡下虫垂切除を施行した1例および本邦報告例の集計. **消化器外科**. 2017; 40(12): 1713-1717.
21. 西成 悠, 加藤 久仁之, 石橋 正久, 大山 健一, 佐々木 章. 審査腹腔鏡が有用であった高分化型乳頭状中皮腫の1例. **岩手医学雑誌**. 2017; 69(1): 25-30.
22. 西成 悠, 加藤 久仁之, 石橋 正久, 大山 健一, 佐々木 章. 腹腔鏡下に切除した虫垂粘液嚢胞腺癌の1例. **岩手医学雑誌**. 2017; 69(1): 31-36.

著 書

1. 佐々木 章：腹腔鏡下スリーブ状胃切除術．**肥満・糖尿病の外科治療**，佐々木章・笠間和典 編，メディカ出版，東京，109-115，2017
2. 水野 大：IV 病態 IV-3-2 逆流した膵液が胆汁と混ざり、胆嚢ないし拡張胆管でうっ滞することで胆道上皮を傷害する物質が発生する．**IBPソードで綴る膵・胆管合流異常の40年**，日本膵・胆管合流異常研究会学術委員会 編，日本膵・胆管合流異常研究会，東京，124-126，2017

国際学会発表

15th St. Gallen International Breast Cancer Conference, Vienna, Austria, 2017/03/15 ~ 03/18

1. Komatsu H, Ishida K, Kawagishi R, Matsui Y, Uesugi N, Ishida K, Osakabe M, Sugai T, Sasaki A. The study of sentinel lymph node biopsy for breast cancer patients after primary systemic therapy. Poster presentation.

American Association for Cancer Research 2017, Washington DC, 2017/04/01 ~ 04/05

1. Kume K, Nishizuka S. Colony lysate arrays for proteomic profiling of drug-persistent cancer cell subpopulations. Poster presentation.
2. Iwaya T, Endo F, Kume K, Sasaki Y, Tokino T, Nishizuka S. Mutation detection by target sequence analyses using tissue-specific panels in esophageal squamous cell carcinoma. Poster presentation.
3. Endo F, Iwaya T, Chiba T, Yaegashi M, Kume K, Sato K, Arisue A, Nishinari Y, Kawagishi R, Segawa T, Nishizuka S, Sasaki A. Evaluation of the utilization of blood collection tubes for cell-free DNA research. Poster presentation.

53rd ASCO Annual Meeting, Chicago, 2017/06/02 ~ 06/06

1. Koeda K, Shitara K, Takashima A, Fujitani K, Tsujimoto H, Tsuji A, Oki E, Takagane A, Takagi M, Hamamoto Y, Baba H, Omuro Y, Okuda H, Nakano Y, Sugimoto N, Nakamura M, Imamura K, Ichikawa D, Kuwano H, Koizumi W. ABSOLUTE, a phase 3 trial of nanoparticle albumin-bound paclitaxel (nab-PTX) versus solvent-based paclitaxel (sb-PTX) in patients with pre-treated advanced gastric cancer (AGC): Efficacy and QOL results. Poster discussion.

6th A-PHPBA 29th JSHBPS, Yokohama, 2017/06/07 ~ 06/10

1. Nitta H. Surgical results for totally laparoscopic hemihepatectomy. Oral presentation.
 2. Takahara T. How to prevent complication in major hepatectomy (Liver). Round Table.
 3. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Makabe K, Takeda D, Katagiri H, Umemura A, Sasaki A. Our experiences of laparoscopic donor hepatectomy in living donor liver transplantation. Symposium.
 4. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Umemura A, Makabe K, Sasaki A. Tricks of the trade in laparoscopic liver parenchymal transection. Oral presentation.
- * Nitta H. Tips in Lap Hepatectomy. Chairman.
* Takahara T. Liver 7. Chairman.

22nd World Congress of International Federation for the Surgery of Obesity and Metabolic Disorders, London, 2017/08/29 ~ 09/02

1. Imoto H, Kasama K, Seki Y, Ohta M, Oshiro T, Sasaki A, Miyazaki Y, Yamaguchi T, Hayashi H, Tanaka N, Naitoh T. Impact of sleeve gastrectomy with duodenal-jejunal bypass for the treatment of t2dm with low mabcd score patients in japan. Poster presentation.

国内学会発表

第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2017/01/13 ~ 01/15

1. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 水野 大. 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術: 周術期栄養管理と成績. シンポジウム.

第 53 回日本腹部救急医学会総会, 横浜, 2017/03/02 ~ 03/03

- * 佐々木 章. 一般演題 (口演) 53 虫垂炎 -3. 司会.

第 89 回日本胃癌学会, 広島, 2017/03/08 ~ 03/10

1. Koeda K, Chiba T, Nishinari Y, Segawa T, Sasaki A. Two-stage operation for marginally resectable advanced gastric cancer with pyloric stenosis. Video Presentation.

日本消化器病学会総会, 東京, 2017/04/20 ~ 04/22

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 佐々木 章. 標準脾容積の設定とそれを利用した肝予備能評価. ワークショップ.

第 117 回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017/04/27 ~ 04/29

1. 佐々木 章. 「Metabolic Surgery の期待とその準備」～新たな導入の試み～. ランチョンセミナー.
2. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 塩井 義裕, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 食道癌に対する周術期多職種サポートチーム介入の効果. 一般示説.
3. 大塚 幸喜. 困難症例における腹腔鏡下大腸切除術. ランチョンセミナー.
4. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 藤井 仁志, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術に対する医療リスクマネージメント - 手術の安全性を担保するための教育 -. 特別企画.
5. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 徳, 三宅 孝典, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 手術見学プログラムによる下部消化管手術教育. ワークショップ.
6. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 天野 怜, 瀬川 武紀, 西成 悠, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 術前サルコペニアを有する高齢者胃癌患者に対する周術期管理の工夫. 一般示説.
7. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 秋山 有史, 塩井 義裕, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. Target sequence による食道癌変異遺伝子同定効率に関する検討. サージカルフォーラム.
8. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 天野 怜, 瀬川 武紀, 西成 悠, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 切除不能進行・再発胃癌二次治療に対するラムシルマブの有用性. 一般示説.
9. 水野 大, 有末 篤弘, 小林 めぐみ, 佐々木 章. 超低出生体重児の外科と治療成績. サージカルフォーラム.
10. 新田 浩幸. 腹腔鏡下系統的肝切除の安全性に関する検討. ポスターセッション.
11. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 当教室における高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌手術の検討. 一般口演.
12. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡下結腸癌手術における術前腸管処置の検討. ワークショップ.
13. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除における手術難易度規定因子. 一般示説.
14. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科での HPD の治療成績と現在の方針. 一般示説.
15. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 当教室における高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌手術の検討. ポスター.
16. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 秋山 有史, 塩井 義裕, 天野 総, 高原 武志, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 食道扁平上皮癌治療経過における血液腫瘍マーカーの有用性の検討. 一般口演.
 - * 佐々木 章. ポスターセッション 食道 - 食道癌 -2. 司会.
 - * 大塚 幸喜. ポスターセッション 大腸 腹腔鏡 2. 座長.
 - * 新田 浩幸. ポスターセッション (127) 「肝臓 - 腹腔鏡下手術 -2」. 司会.

第 54 回日本小児外科学会学術集会, 仙台, 2017/05/11 ~ 05/13

1. 有末 篤弘, 水野 大, 佐々木 章. 胎児期に発見された腹腔内停留精巢原発成熟奇形腫の 2 例. Poster Presentation.
 - * 水野 大. ポスターセッション (15) 新生児. 司会.

第 29 回日本内分泌外科学会総会, 神戸, 2017/05/18 ~ 05/19

1. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 馬場 誠朗, 安藤 太郎, 梅邑 晃, 秋山 有史, 高原 武志, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 水野 大. 乳房アプローチによる内視鏡下甲状腺切除術: 手術手技の工夫と成績. 要演演題.

第 15 回日本ヘルニア学会学術集会, 東京, 2017/06/02 ~ 06/03

1. 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 亀山 哲章, 富澤 勇貴, 菊地 大輝, 有末 篤弘, 高原 武志, 秋山 有史, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 鼠径ヘルニアに対する Reduced port totally extraperitoneal repair の導入と現状. シンポジウム.

第 71 回日本食道学会学術集会, 軽井沢, 2017/06/15 ~ 06/16

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 佐々木 章. 進行食道癌に対する DCF による術前化学療法が手術に与える影響. 一般示説.

第 35 回日本肥満症治療学会学術集会, 盛岡, 2017/06/23 ~ 06/24

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 梅邑 晃, 肥田 圭介, 水野 大. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における腸内・口腔内細菌叢の変化. 一般示説.
2. 片桐 弘勝, 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 佐々木 章. 肥満患者に対する腹腔鏡下肝切除術の手術成績. Poster Presentation.
3. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 畑中 智貴, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 当科における肥満患者に対する腹腔鏡下結腸癌手術の現状. 一般示説.
4. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 天野 怜, 瀬川 武紀, 西成 悠, 遠藤 史隆, 秋山 有史, 岩谷 岳, 佐々木 章. BMI 30 以上の胃癌患者に対する腹腔鏡下胃切除の検討. 一般示説.
5. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 千葉 丈広, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. BMI が化学療法後に手術を施行した進行食道癌の治療成績に与える影響. 一般示説.
6. 二階 春香, 佐々木 章, 新田 浩之, 大塚 幸喜, 安藤 太郎, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 水野 大, 肥田 圭介. 肥満外科手術に対するチーム医療の効果. パネルディスカッション.

第 42 回日本外科系連合学会学術集会, 徳島, 2017/06/28 ~ 06/30

- * 佐々木 章. ワークショップ 12: 災害時におけるチームのちから. 座長.

第 25 回日本乳癌学会学術集会, 福岡, 2017/07/13 ~ 07/15

1. 川岸 涼子, 小松 英明, 松井 雄介, 石田 和茂, 刑部 光正, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 当院における術前化学療法 例に対する Neutrophil lymphocyte ratio の検討. Poster Presentation.
2. 石田 和茂, 小松 英明, 松井 雄介, 川岸 涼子, 川崎 朋範, 刑部 光正, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における HER2 検査 (IHC および FISH) の検討. 一般口演.
3. 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 川岸 涼子, 刑部 光正, 上杉 憲幸, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における Fulvestrant の使用症例の検討. 一般示説.

第 72 回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017/07/20 ~ 07/22

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 梅邑 晃, 肥田 圭介, 水野 大. 肥満 2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の成績と腸内細菌叢の変化. 一般口演.
2. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肥満直腸癌症例に対する偶発症と予防対策 Pitfalls of laparoscopic surgery for obese rectal cancer patients. 要望.
3. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 眞壁 健二, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. グリソン鞘一括処理による腹腔鏡下肝左葉切除～新しいグリソン鞘確保手技を用いて～. 要望演題.
4. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 大腸癌における一時的回腸人工肛門造設後及び閉鎖後の腎機能の検討. 一般口演.
5. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 西成 悠, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 安全確実な腹腔鏡下胃切除術後再建法の確立～ Linear stapler と Barbed suture device を用いた腹腔内再建～. 一般口演.
6. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除は開腹肝切除と比べて適応を拡大できるか? 一区域以上肝切除の術後データの比較. パネルディスカッション.
7. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 瀬川 武紀, 天野 怜, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. Clinical study of gastric cancer with synchronous liver metastasis. ミニオーラル.
8. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 秋山 有史, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 食道扁平上皮癌パネルを用いた変異解析の有用性の検討. シンポジウム.
9. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. ドナー肝切除において肝離断後にグリソン内より再建脈管を剥離する影響. 一般口演.
10. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下直腸癌手術における一時的双口式回腸ストーマの Outlet obstruction の検討. 一般口演.
11. 川島 到真, 西村 隆一, 小山田 尚, 宮崎 修吉. 10 年という長い期間を経て増大した肝腫瘍で術後病理検査にて胆管内乳頭粘液腫の診断に至った 1 例. 一般口演.
12. 二階 春香, 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 肥田 圭介. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の体重減少不良例: 臨床成績と栄養調査結果. 一般口演.

- * 佐々木 章. Reduced port surgery の実際と工夫 1. 座長.
- * 新田 浩幸. 腹腔鏡下肝切除の実際と工夫 3. 座長.

第 53 回日本移植学会総会, 旭川, 2017/09/07 ~ 09/09

1. 新田 浩幸. 腹腔鏡によるドナー肝切除術. ランチョンセミナー.
 2. 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 石田 和之, 佐々木 章. 生体肝移植術後早期にタクロリムスによる TMA を発症した一例. 一般示説.
 3. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 菅野 将司, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院での脳死肝移植の現況. 一般口演.
- * 高原 武志. 肝移植. 座長.

第 9 回日本 Acute Care Surgery 学会, 札幌, 2017/09/08 ~ 09/09

1. 片桐 弘勝, 玉澤 佳之, 天野 怜, 佐々木 章. What kind of role should an acute care surgeon play in disasters? Experiences in the Medical Assistant Team at Ishinomaki Red Cross Hospital during the super-acute phase of the Great East Japan Earthquake. ワークショップ.
2. 天野 怜, 新田 浩之, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. Interventional Radiology 施行後の肝膿瘍形成に関する検討. Poster Presentation.

第 76 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2017/09/28 ~ 09/30

1. Takeshi Iwaya, Fumitaka Endo, Yasushi Sasaki, Mizunori Yaegashi, Takehiro Chiba, Yuji Akiyama, Mari Masuda, Tesshi Yamada, Takashi Tokino, Satoshi Nishizuka. Exploitation of a liquid biopsy system using circulating tumor DNA in esophageal cancer patients. 一般口演.

JDDW2017(第 25 回日本消化器関連学会週間、消化器病学会), 福岡, 2017/10/12 ~ 10/15

1. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 秋山 有史, 梅邑 晃, 二階 春香, 鳥谷 洋右, 高原 武志, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 松本 主之, 西塚 哲, 佐々木 章. 遺伝子変異情報を用いた食道扁平上皮癌診療システムの開発. 一般示説.
 2. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除における助手の役割—肝離断をうまく進めるために. ワークショップ.
 3. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 佐々木 章. 進行食道癌に対する DCF による化学療法後の胸腔鏡下食道切除術の安全性評価. 一般示説.
 4. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 西成 悠, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 高齢者進行胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術の短期成績. 一般口演.
 5. 木村 聡元. 当科における高齢者に対する腹腔鏡下結腸癌手術症例の検討. 一般示説.
 6. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 梅邑 晃, 肥田 圭介, 水野 大. 肥満 2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の成績とヘパトカインの変化. 一般示説.
 7. 天野 怜, 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術において肥満が手術成績に及ぼす影響. Poster Presentation.
 8. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 再肝切除における腹腔鏡下肝切除の位置づけ. ワークショップ.
- * 新田 浩幸. デジタルポスターセッション (消化器外科学会) 肝臓 (鏡視下手術 (悪性)) 3. 座長.

第 55 回日本癌治療学会学術総会, 横浜, 2017/10/20 ~ 10/22

1. 小松 英明. 当科における悪心に対するオランザピンの効果についての検討. ワークショップ.
- * 新田 浩幸. デジタルポスター 20 肝臓 症例報告・その他. 司会.
 - * 佐々木 章. プレナリーセッション. 座長.
 - * 肥田 圭介. 胃手術 2. 座長.

第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会, 博多, 2017/11/10 ~ 11/11

1. 大塚 幸喜. 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 - 周術期管理から実際の手技まで - . ランチタイムセミナー 15.
2. 木村 聡元. 当科における高齢者に対する腹腔鏡下結腸癌手術症例の検討. 一般口演.
3. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 近藤 優, 佐藤 慧, 畑中 智貴, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 箱崎 将規, 佐々木 章. 人工肛門閉鎖術における閉鎖処置法の検討. 一般口演.

第 79 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017/11/23 ~ 11/25

1. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術におけるグリソン鞘処理と術中胆汁漏れに対する対応. ビデオシンポジウム.
2. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 畑中 智貴, 近藤 優, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸手術の出血に対する適切な処置と反省. ビデオシンポジウム.
3. 大塚 幸喜. 全ての基本は S ~ TME の前にやるべきこと ~ . 学術セミナー 14.

4. 大塚 幸喜. 骨盤モデル Hands on. ハンズオンセミナー.
5. 木村 聡元. 当教室における腹腔鏡下大腸癌手術に用いるエネルギーデバイスの工夫. 一般口演.
6. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における clamp crush 法. ワークショップ.
7. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. Marginal recipient への肝移植. ワークショップ.
- * 肥田 圭介. 胃癌手術のベストプラクティス. 座長.

第 48 回日本消化吸収学会総会, 盛岡, 2017/11/25

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病外科治療の可能性と今後の展望. 教育セミナー.

第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会, 東京, 2017/11/29 ~ 11/30

1. 高清水 清治, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 術後肺炎に伴う重症敗血症を来し、治療に難渋したが救命しえた脳死肝移植の 1 例. 一般示説.
2. 天野 怜, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 脳死肝移植術後に発症した侵襲性アスペルギルス症の一例. Poster Presentation.

第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017/12/07 ~ 12/09

1. 高清水 清治, 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 再発した肝粘液嚢胞性腫瘍に対して腹腔鏡下肝左葉切除術を施行した 1 例. 一般示説.
2. 佐々木 章. Current status and future perspective of bariatric and metabolic surgery. シンポジウム.
3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 天野 怜, 棚橋 洋太, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 腹腔鏡下手術の視点からみた膵間膜の外科解剖. ワークショップ.
4. 水野 大, 小林 めぐみ, 川島 到真, 佐々木 章. 異物完全除去に気胃が有用であった小児異食症の一例. Poster Presentation.
5. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 近藤 優, 畑中 智貴, 高清水 清治, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 進行横行結腸癌に対する 腹腔鏡下リンパ節郭清手技. ワークショップ.
6. 木村 聡元. 当科における肥満患者に対する腹腔鏡下結腸癌手術の検討. サージカルフォーラム.
7. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 前方アプローチによる完全腹腔鏡下右肝切除術 - 集大成としての定型的手術 -. 特別企画.
8. 有末 篤弘, 川村 英伸, 石橋 正久, 伊藤 千絵, 青木 毅一, 畠山 元, 杉村 好彦. 膨隆が不明瞭な鼠径部ヘルニアに対し TAPP を行った 3 例. 一般示説.
9. 棚橋 洋太, 秋山 有史, 梅邑 晃, 二階 春香, 肥田 圭介, 千葉 丈広, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 藤原 久貴, 須藤 隆之, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 高原 武志, 佐々木 章. Reduced port surgery にて腹腔鏡下胆嚢摘出術と胃瘻造設術を同時に施行した 1 例. 一般口演.
10. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 棚橋 洋太, 天野 怜, 二階 春香, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 全身化学療法後に腹腔鏡下胃切除を施行した高度進行胃癌の検討. ミニオーラル.
11. 馬場 誠朗, 肥田 圭介, 岩谷 岳, 富澤 勇貴, 棚橋 洋太, 二階 春香, 梅邑 晃, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 鼠径ヘルニアに対する安全で確実な Laparoscopic totally extraperitoneal repair の手術手技の工夫. 一般口演.
12. 佐藤 慧, 大塚 幸喜, 畑中 智貴, 近藤 優, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 技術認定取得に向けた音声入り手術動画での教育システム. 一般口演.
13. 天野 怜, 長谷川 康, 新田 浩之, 高原 武志, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡補助下幽門輪温存膵頭十二指腸切除術を施行した solid pseudopapillary neoplasm の一例. Poster Presentation.
14. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 再肝切除における腹腔鏡下肝切除の有用性. 一般口演.
15. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. T4 食道癌に対する化学療法後 conversion surgery としての胸腔鏡下食道切除術の治療成績. 一般示説.
16. 新田 浩幸. 巨大肝腫瘍に対する腹腔鏡下肝右葉切除術. 一般口演.
17. 新田 浩幸. 肝切除への応用～私はこうやって使う 蛍光 Navigation ～. 一般口演.
18. 新田 浩幸. 肝臓 3 手術手技 1. Surgical Forum.
19. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃全摘 Overlap 法による再建の工夫. ワークショップ.
20. 二階 春香, 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 棚橋 洋太, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩之, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 胸腔鏡下食道切除術を施行した食道平滑筋肉種と扁平上皮癌の併存症例. 一般示説.

講演会・研究会・セミナー

第 86 回 大腸癌研究会, 盛岡, 2017/01/20

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 徳, 三宅 孝典, 佐々木 章. 腹腔鏡下直腸癌手術における縫合不全予防に対する当科の取り組み. 一般示説.

2nd Eastern&Western Association Liver Tumors 2017, Sendai, 2017/01/27 ~ 01/28

1. Nitta H. [Hepatocellular Carcinoma Symposium] Multidisciplinary Therapy for HCC. シンポジウム.

第 33 回岩手県 CT 研究会, 盛岡, 2017/01/28

1. 水野 大. 小児外科って何? & CT の有用性は?. 特別講演.

主陵会秋田中央支部講演会, 秋田, 2017/02/04

1. 佐々木 章. 2 型糖尿病に対する外科治療の効果と今後の展望. 特別講演.

第 16 回肝移植医療フォーラム, 東京, 2017/02/18

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 片桐 弘勝, 石森 由樹, 松岡 真奈美, 石田 和之, 佐々木 章. マージナルドナーでの脳死肝移植手術の経験. 一般口演.

第 14 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2017/03/04

1. 石田 和茂, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 二瓶 哲, 佐々木 章. ホスアプレピタントに伴う注射部位疼痛の検討. 一般口演.
2. 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 石田 和之, 刑部 光正, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における若年性乳癌の検討. 一般口演.

第 8 回肥満症治療総合セミナー, 佐倉, 2017/03/04 ~ 03/05

1. 佐々木 章. 肥満外科治療の実際 外科治療総論～術式、適応、効果～. 講演.

第 6 回岩手呼吸リハビリテーションセミナー, 盛岡, 2017/03/05

1. 秋山 有史. 外科における ICU での集中治療・管理. 講演.

第 16 回東日本肝移植周術期研究会, 東京, 2017/03/11

1. 高原 武志. 岩手医大での肝移植 ～肝胆膵外科・内視鏡外科・移植外科に従事して～. 特別講演.

第 50 回制癌剤適応研究会, 徳島, 2017/03/17

1. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 八重樫 瑞典, 千葉 丈広, 川岸 涼子, 有末 篤弘, 秋山 有史, 高原 武志, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 食道癌パネルを用いた食道扁平上皮癌症例の遺伝子変異解析. 一般口演.

第 28 回東北小児肝胆膵消化管研究会, 仙台, 2017/03/18

- * 水野 大. 一般口演. 司会.

第 19 回北九州肝癌治療研究会, 北九州, 2017/03/25

1. 新田 浩幸. ここまで来た、肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術. 特別講演.

日本獣医内視鏡外科研究会第 13 回学術集会, 大阪, 2017/03/26

1. 新田 浩幸. 人医療での腹腔鏡下肝臓外科手術の実際. 講義.

第 28 回内視鏡外科フォーラム東北, 山形, 2017/04/15

- * 肥田 圭介. がん研における機能温存胃切除術. 座長.
- * 肥田 圭介. 一般演題 食道・胃. 座長.

第 20 回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡, 2017/04/22

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 天野 聡, 千葉 丈広, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 化学療法後の進行食道癌手術患者において BMI が治療成績に与える影響. 一般口演.

第 28 回内視鏡外科フォーラム東北 in 山形, 山形, 2017/04/25

- * 新田 浩幸. 一般演題 肝胆膵その他. 座長.

第 7 回とちぎ外科教育セミナー, 宇都宮, 2017/05/10

1. 佐々木 章. 肥満患者に対する外科治療: 新たな展開と治療戦略. 特別講演.

第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017/05/18 ~ 05/20

1. 佐々木 章. 糖尿病に対する外科治療の効果とこれからの治療戦略. ランチョンセミナー.

第 6 回腹腔鏡下スリーブ状胃切除術セミナー, 東京, 2017/05/20

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章. スリーブ状胃切除術の手法概説. セミナー.
- * 佐々木 章. スリーブ状胃切除術の知識と技術の習得. 司会.

第 675 回 岩手医学会, 盛岡, 2017/05/26

1. 高清水 清治, 天野 怜, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 長谷川 康, 高原 武志, 新田 浩幸, 佐々木 章. 大伏在静脈を用いて SMA の再建を行なった局所進行膀胱癌の 1 例. 一般口演.

第 35 回日本肝移植研究会, 大阪, 2017/06/01 ~ 06/02

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 当科での腹腔鏡下ドナー肝切除の成績. 特別企画.
- * 高原 武志. de novo 癌, de novo AIH. 座長.

第 173 回 東北外科集談会, 仙台, 2017/06/03

1. 天野 怜, 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 巨大粘液産生膀胱癌の一例. 一般口演.

第 88 回日本小児外科学会東北地方会, 仙台, 2017/06/03

1. 川島 到真, 水野 大, 有末 篤弘, 佐々木 章. 11 歳までに経過観察された先天性十二指腸狭窄症の 1 例. 一般口演.

Colorectal Cancer Expert Meeting in Morioka, 盛岡, 2017/06/16

- * 佐々木 章. 特別講演 Evidence を考慮した進行再発大腸癌の治療戦略. 座長.

第 68 回秋田県南医学会, 秋田, 2017/06/18

1. 佐々木 章. メタボリックサージェリーの現状と今後の展望. 特別講演.

第 39 回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017/06/23

1. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 松尾 鉄平, 畑中 智貴, 佐々木 章. 進行痔瘻癌に対して集学的療法により根治手術施行した長期生存の 1 例. 一般口演.
2. 遠藤 史隆, 杉立 彰夫, 肥田 圭介, 岩谷 岳, 秋山 有史, 梅邑 晃, 木村 聡元, 高原 武志, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 発色による末梢神経可視化の試み. 一般口演.

日本消化器病学会東北支部第 203 回例会, 岩手, 2017/06/30 ~ 07/01

1. 高原 武志. 日本での脳死肝移植の現状と岩手医大での取り組み. 基調講演.

第 6 回サマーセミナー, 沖縄, 2017/06/30 ~ 07/01

1. 天野 怜, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術において肥満が手術成績に及ぼす影響. 一般口演.

第 53 回日本肝癌研究会, 東京, 2017/07/06 ~ 07/07

- * 新田 浩幸. ワークショップ 1 腹腔鏡下肝切除, 保険適応拡大のその後. 司会.

6th Reduced Port Surgery Forum 2017 in Oita, 大分, 2017/08/04 ~ 08/05

1. 佐々木 章. 肥満患者に対する腹腔鏡下手術 ~視野確保と安全性の追及~, イブニングセミナー.
2. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. Reduced Port Surgery による腹腔鏡下肝左葉切除術. 一般口演.
- * 新田 浩幸. Evidence6: 肝胆膵. 司会.

第 43 回東北小児外科研究会, 盛岡, 2017/09/08

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 川島 到真, 佐々木 章. 専門医取得を目指す女性外科医に必要な支援とは. 一般口演.
- * 水野 大. 主題: 小児外科研修, 症例検討, 特別講演: 今後の小児外科専門医. 司会.

第 36 回 Microwave Surgery 研究会, 和歌山, 2017/09/08 ~ 09/09

1. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下肝切除術のエネルギーデバイス選択. 一般口演.
- * 新田 浩幸. 鏡視下肝切除におけるエネルギーデバイスの選択?. 座長.

第 89 回日本小児外科学会東北地方会, 盛岡, 2017/09/09

1. 川島 到真, 水野 大, 小林 めぐみ, 佐々木 章. 血尿を契機に発見された巨大腎杯症の 1 例. 一般口演.

第 174 回 東北外科集談会, 盛岡, 2017/09/09

1. 有末 篤弘, 川村 英伸, 石橋 正久, 伊藤 千絵, 青木 毅一, 畠山 元, 杉村 好彦. 当院における膵膵部ヘルニア嵌頓 41 例の検討. 一般口演.
2. 佐藤 慧, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 近藤 優, 畑中 智貴, 阿部 崇臣, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 同時性孤立性胸椎転移をきたした S 状結腸癌の 1 例. 一般口演.
3. 木村 聡元. 腹腔鏡下大腸切除術 ~次世代の挑戦~. ランチョンセミナー.

第 11 回 北東北 LAC 情報交換会, 盛岡, 2017/09/16

1. 木村 聡元. 技術認定医取得を考える. 講演.
- * 佐々木 章. 特別講演 2 腹腔鏡下大腸切除: 動作制限の克服と技術認定への道. 座長.

第 1 回北海道・東北肥満・糖尿病チーム医療セミナー，北海道，2017/09/30

1. 佐々木 章 . メタボリックサージェリーの効果と可能性 非アルコール性脂肪性肝炎に対する効果 . シンポジウム .

第 30 回東北移植研究会，仙台，2017/10/07

1. 高原 武志，新田 浩幸，長谷川 康，片桐 弘勝，菅野 将史，小林 めぐみ，水野 大，佐々木 章 . 当科での小児に対する肝移植の成績 . 一般口演 .

秋田南部地区糖尿病ネットワーク講演会，秋田，2017/10/16

1. 佐々木 章 . 肥満・糖尿病手術の現状と今後の展望 . 特別講演 .

第 13 回いわて肝移植適応研究会，盛岡，2017/10/27

- * 佐々木 章 . 特別講演 脳死肝移植の現状とこれから . 座長 .

第 12 回次世代の内視鏡下消化管手術セミナー，盛岡，2017/10/28

1. 肥田 圭介 . 高度肥満胃癌の攻略 . 一般口演 .
- * 佐々木 章 . 特別講演 大腸癌手術の現状と未来～シングラティ後に生き残れる外科医～ . 司会 .

第 47 回胃外科・術後障害研究会，横浜，2017/11/03～11/04

1. 千葉 丈広，肥田 圭介，天野 怜，二階 春香，高清水 清治，馬場 誠朗，梅邑 晃，秋山 有史，佐々木 章 . 80 歳以上の高齢者に対する腹腔鏡下胃切除の検討 . 一般示説 .

幕開け！高度肥満症外科手術に関する多職種連携セミナー，東京，2017/11/04

- * 佐々木 章 . 肥満・糖尿病領域における安全な外科治療を学ぶ . 司会 .

第 2 回肥満・糖尿病外科手術セミナー，東京，2017/11/11

- * 佐々木 章 . 肥満・糖尿病外科手術のチームビルディング . 司会 .

第 7 回みちのく LAG セミナー，盛岡，2017/11/18

- * 佐々木 章 . 特別講演 2 . 座長 .

第 10 回東北ヘルニア研究会，仙台，2017/11/18

1. 有末 篤弘，川村 英伸，石橋 正久，伊藤 千絵，青木 毅一，畠山 元，杉村 好彦 . 当院における鼠径部ヘルニア嵌頓の検討 . 一般口演 .
2. 馬場 誠朗，肥田 圭介，富澤 勇貴，二階 春香，高清水 清治，野田 芳範，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，水野 大，佐々木 章 . 腹部手術既往歴のある鼠径ヘルニアに対する Totally extra-peritoneal repair . 一般口演 .

第 11 回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会，京都，2017/12/06

1. 馬場 誠朗，佐々木 章，大塚 幸喜，新田 浩幸，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，肥田 圭介，水野 大 . 術前カンファレンス . 一般口演 .
- * 佐々木 章 . 減量手術の術前評価と周術期管理 . 司会 .

第 11 回肝臓内視鏡外科研究会，京都，2017/12/06

1. 片桐 弘勝，新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，菅野 将史，天野 怜，棚橋 洋太，佐々木 章 . 肝胆膵外科修練医による Reduced Port Surgery での腹腔鏡下肝外側区域切除術 . 一般口演 .
2. 長谷川 康 . 腹腔鏡下肝切除技術認定に必要なエッセンス . 特別企画 .
3. 新田 浩幸 . Next Stage の腹腔鏡下大肝切除 . パネリスト .
4. 新田 浩幸 . レジストリー報告 . 発表 .

東北炎症性腸疾患講演会，二戸，2017/01/24

1. 大塚 幸喜 . 消化器外科医に必要な 炎症性腸疾患の実臨床と腹腔鏡手術 . 講演 .

兵庫大腸がんフォーラム，兵庫，2017/01/31

1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下直腸癌手術を 安全に適応拡大していくためには . 講演 .

第 12 回 カシオペア癌懇話会，二戸，2017/02/03

1. 木村 聡元 . 当科における大腸癌治療の現状 . 講演 .

東京外科 KANPO 講演会，東京，2017/02/10

1. 大塚 幸喜 . 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 - 周術期管理から実際の手技まで - . 講演 .

平成 28 年度宮古医師会緩和ケア医療講習会，宮古，2017/02/23

1. 木村 祐輔 . がん治療と並行して行う緩和ケアー岩手医科大学付属病院緩和ケアチームの活動からー . 講演 .

第 1 回青森 LAC セミナー，青森，2017/03/18

1. 大塚 幸喜 . 大腸癌に対する安全な腹腔鏡手術をめざしてー 教育の重要性 - . 講演 .

第 2 回鹿児島ラパロシティーフォーラム，鹿児島，2017/05/12

1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術の 適応拡大のために必要なことー 教育の重要性 - . 講演 .

おどおり健康教室，盛岡，2017/05/20

1. 新田 浩幸 . 最新の肝胆膵領域の外科治療 . 特別講演 .

第4回駿府大腸会議, 静岡, 2017/05/26

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにも上手になるか、いかにも上手にするか. 講演.

第7回釧路腹腔鏡手術セミナー, 釧路, 2017/06/01

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにも上手になるか、いかにも上手にするか. 講演.

第2回LAC eleven, 大阪, 2017/06/10

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸手術の術中偶発症・術後合併症を反省する. 講演.

アイリスの会総会, 盛岡, 2017/06/18

1. 小松 英明. 乳がんの最近の話題. 講演.

能代山本地区胃癌セミナー, 能代, 2017/06/29

1. 肥田 圭介. 胃癌治療の現状と展望. 講演.

第3回福大ラバの会, 福岡, 2017/06/30

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにも上手になるか、いかにも上手にするか. 講演.

2017 大腸手術手技勉強会 ~ Video CAMPS ~, 名古屋, 2017/07/01

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下S状結腸切除 ~技術認定取得のポイント~. 講演.

主理会新潟支部医学部総会, 新潟, 2017/07/08

1. 新田 浩幸. 腹腔鏡下肝切除術の最前線~岩手医科大学からの発信~. 特別講演.

第73回圭稜会院長総会, 盛岡, 2017/07/28

1. 佐々木 章. これからの肥満2型糖尿病の治療戦略. 講演.

LACスキルアップサポートプログラム, 東京, 2017/07/29

1. 木村 聡元. 技術認定医取得を考える. 講演.

第6回E-LAPセミナー(岡山大学), 川崎, 2017/08/05

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術の基本手技 一技術認定医試験合格の秘訣一. 講演.

第6回山陰腹腔鏡下大腸切除勉強会(鳥取大学), 米子, 2017/08/26

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにも上手になるか、いかにも上手にするか. 講演.

平成29年度第1回がん・緩和セミナー, 盛岡, 2017/08/26

1. 木村 聡元. 大腸癌化学療法 ~ evidence と当科の取り組み~. 講演.

CRC Clinical Conference, 東京, 2017/09/08

1. 大塚 幸喜. 進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術手技と Knack & Pitfalls. 講演.

第14回腹腔鏡下手術の理論と基礎(昭和大学), 東京, 2017/09/09

1. 大塚 幸喜. 大腸癌に対する安全な腹腔鏡手術をめざして 一教育の重要性一. 講演.

岩手医科大学 創立120周年記念事業 健康フェス2017, 矢巾, 2017/09/09

1. 小松 英明. これってほんと!! ~乳がんについて正しい知識を得よう~. 講演.

肝疾患連携セミナー, 盛岡, 2017/09/10

1. 高原 武志. 肝疾患の外科治療(肝臓移植まで). セミナー.

北九州腹腔鏡手術塾(産業医科大学), 北九州, 2017/09/13

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにも上手になるか、いかにも上手にするか. 講演.

第5回秋田県鏡塾, 秋田, 2017/09/22

1. 大塚 幸喜. S状結腸癌、直腸癌に対する腹腔鏡手術の基本手技 -技術認定医試験合格の秘訣-. 講演.

北日本mCRC化学療法講演会, 札幌, 2017/09/23

1. 木村 聡元. 切除不能・進行再発大腸癌に対する二次治療~三次治療におけるRamucirumabの使用経験. 講演.

第3回次世代の内視鏡手術を語る会(九州大学), 福岡, 2017/09/28

1. 大塚 幸喜. S状結腸癌、直腸癌に対する腹腔鏡手術の基本手技 -技術認定医試験合格の秘訣-. 講演.

八戸大腸癌セミナー, 八戸, 2017/10/05

1. 大塚 幸喜. 進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術手技と Knack & Pitfalls. 講演.
2. 木村 聡元. 当科における大がん化学療法. 講演.

第16回日本癌治療学会市民公開講座, 盛岡, 2017/10/09

1. 小松 英明. プレジジョン・メディシン 乳がん. 講演.

黒棲出前講義, 北上, 2017/10/25

1. 佐々木 章 . 医学の可能性と医療人の仕事 . 招待講演 .

第 12 回次世代の内視鏡下消化管手術セミナー, 盛岡, 2017/10/28

1. 大塚 幸喜 . たかが右側結腸、されど右側結腸 — 術中偶発症・術後合併症を反省する — . 講演 .

第 2 回沖縄県腹腔鏡下大腸切除手技セミナー, 那覇, 2017/11/04

1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下 S 状結腸・直腸の手術手技 . 講演 .

岩手医科大学附属病院がんサロンボランティア講習会, 盛岡, 2017/11/11

1. 肥田 圭介 . 胃癌についてのいろいろなお話し . 講演 .

第 7 回広島低侵襲外科フォーラム, 広島市, 2017/11/22

1. 肥田 圭介 . 腹腔鏡下胃切除の定型化と教育 . 講演 .

Covidien Clinical Immersion Program, 盛岡, 2017/11/28 ~ 11/29

1. 木村 聡元 . 腹腔鏡下 S 状結腸切除術 ~ 助手の活用法 ~ . 講演 .

第 4 回新宿大腸癌 Experts セミナー, 東京, 2017/11/29

1. 大塚 幸喜 . 大腸癌に対する 安全な腹腔鏡手術を目指して — 知っておくべき偶発症と合併症 — . 講演 .

Taiho Gastric Cancer Forum in Tottori, 鳥取, 2017/12/01

1. 肥田 圭介 . 胃癌治療の現状と展望~腹腔鏡下胃切除と薬物療法について~ . 講演 .

Northeast Japan Gastric Cancer Symposium, 仙台, 2017/12/03

1. 肥田 圭介 . 胃癌 2nd line 治療の新展開 . 講演 .

岩手県大腸癌治療を考える会 2017, 盛岡, 2017/12/15

1. 木村 聡元 . 当科における大がん化学療法 . 講演 .

編集後記

今回も各関連病院の先生方をはじめ、関係する皆様には年明けから慌ただしく原稿等をお願いいたしました。日常診療でお忙しい中、ご対応を頂きましてありがとうございます。おかげさまで今年も発行予定の4月1日に遅れることなく発刊の運びとなりました。編集に際しては、他業務に忙殺される中で対応してくれた秘書の方々にも感謝がつかみません。今後も充実した教室年報を皆様にお届け出来るよう、力を入れていきたいと思えます。ご要望、ご意見がございましたら、ご遠慮なく申し付けください。今後とも何卒よろしくをお願いいたします。

(文責 秋山有史)



表紙説明

撮影：2017.07

巖美溪(げんびけい)は、岩手県一関市にある栗駒山を水源とする磐井川中流の渓谷です。磐井川の長年の水流の浸食によって形成された奇岩、深淵、甌穴などダイナミックな景観が約2キロメートルにわたって続きます。エメラルドグリーンの水流と四季折々の風景が訪れる人々を魅了します。国の名勝及び天然記念物に指定されています。

巖刀会 (がんとうかい: 岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)